

The Kansai University Bulletin

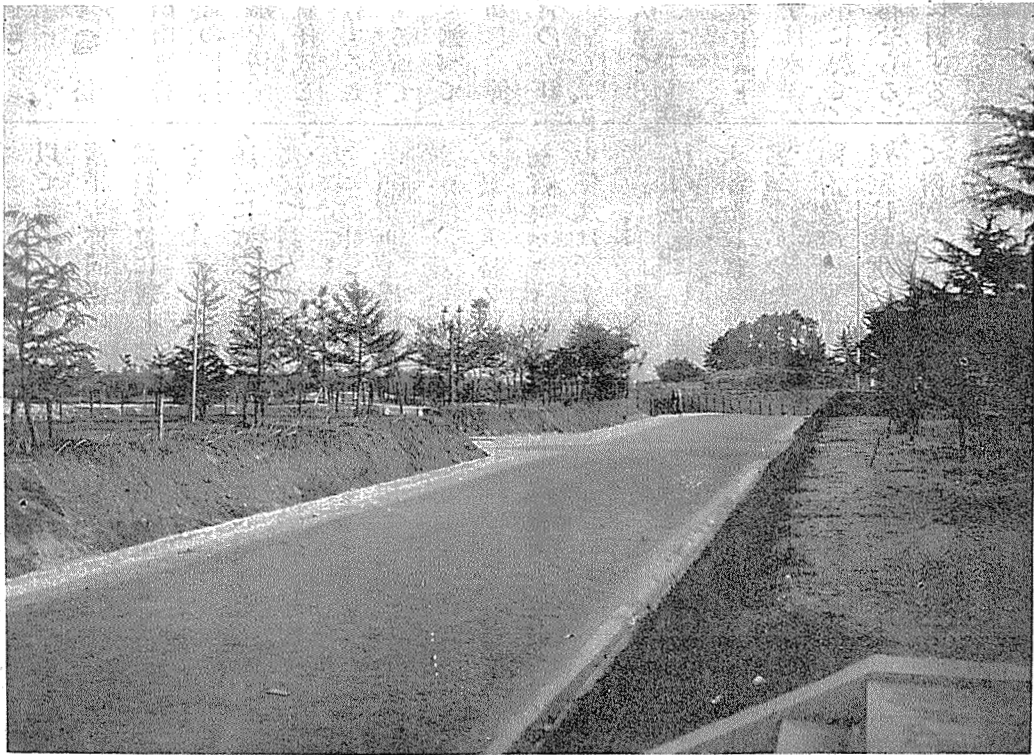
Osaka, May 15th, 1928 No. 59

報學山里千

行發日五十月五

號九十五第

年三和昭



庭學舍學山里千

阪 大

九四〇一(堀佐土)話電
番〇七五七・〇七三七

局報學學大西關

座口金貯替振
番五七八二一阪大

千里山學報 第五十九號

目次

- 挿繪——千里山學舍學庭(表紙)——新學長仁保龜松博士——中村留學生の出發——本學年度入學式——新築圖書館階地及び二階平面圖——校友佐奈正雄氏——新設テニスコート
- 關西大學學長 法學博士 仁保龜松 就任の辭
- 階級的觀念形態に於ける社會政策
- 關西大學教授 岩崎卯一 學者並社會運動家としてのアーノルド・トインビー
- 關西大學講師 辰己經世譯
- 學内報——法文學部文學科開講——學則一部改正——圖書館竣成——學長就任式並學部及び大學豫科入學式舉行——新學長歡迎協議會——學生監囑任——追試験施行——専門部學年試験成績優良若くは佳良者に賞牌授與——庭球コート
- 新設——教職員動靜——大學豫科入學試験問題——記念植樹寄附金決算報告——附屬關西甲種商業學校彙報——附屬第二商業學校彙報
- 校友の面影——佐奈正雄氏
- 校友彙報
- 學生彙報
- 懸賞論文
- 雜錄

就任之辭

(昭和三年度始業式式辭摘録)

關西大學學長 法學博士 仁保龜松

私は松本前學長、喜多村、増山兩專務理事の御懇囑に依りまして、この度薄徳非才を顧ず、本學學長の榮職を汚すこととなりました。本日その就任式と同時に本學年度の入學式を舉行することを得ますのは深く喜びとする所であります。これより聊か所懐を述べて新入學生諸君を迎ふるの辭を爲し、併せて私の採らんとする本學教育の方針に付き、在學生諸君並に教職員各位に開陳するところあらんとする次第であります。

先づ第一に述べんとする所は學生諸君に對する希望である。即ち諸君は本學卒業後に於て、否、既に在學中に於ても本學を指して各自の母校と稱せらるるのであつて、諸君が既に母に對すると同様の温情を以て本學に對せらるるに於ては、本學及び教職員一同が諸君を本學の教へ子、否寧ろ愛子として諸君に接すべきは當然である。私は新學

長として第一に諸君と本學との間に母子の温情が益醸成せらるることを切望するのであつて、即ち私はこの心得を以て諸君に臨まんとするのであるから諸君も亦同様の心得を以て本學及び教職員各位に親しまれんことを希望します。

第二に述べんとする所は諸君に對する要求であります。今我國の大學令を見ますに、その第一條に『大學ハ國家ニ須要ナル學術ノ理論及應用ヲ教授シ竝ニ其ノ蘊奧ヲ攻究スルヲ以テ目的トシ兼テ人格ノ陶冶及國家思想ノ涵養ニ留意スベキモノトス』とあります。この條文は云ふまでもなく大學存立の意義並に目的を明かにしたものである。私の記憶にして誤なくんば從前の帝國大學令には『兼テ……』以下後段の規定がなかつたのであります。即ち人格陶冶及び國家思想涵養に關する後段の規定は最近に至り大學令の發布に當つて附加せられたものであります。このことは從前の大學教育が智育に偏して其弊を流すに至つたことを示すと同時に、これを矯正する爲めに特に後段の規定を附加したのである。惟ふに新大

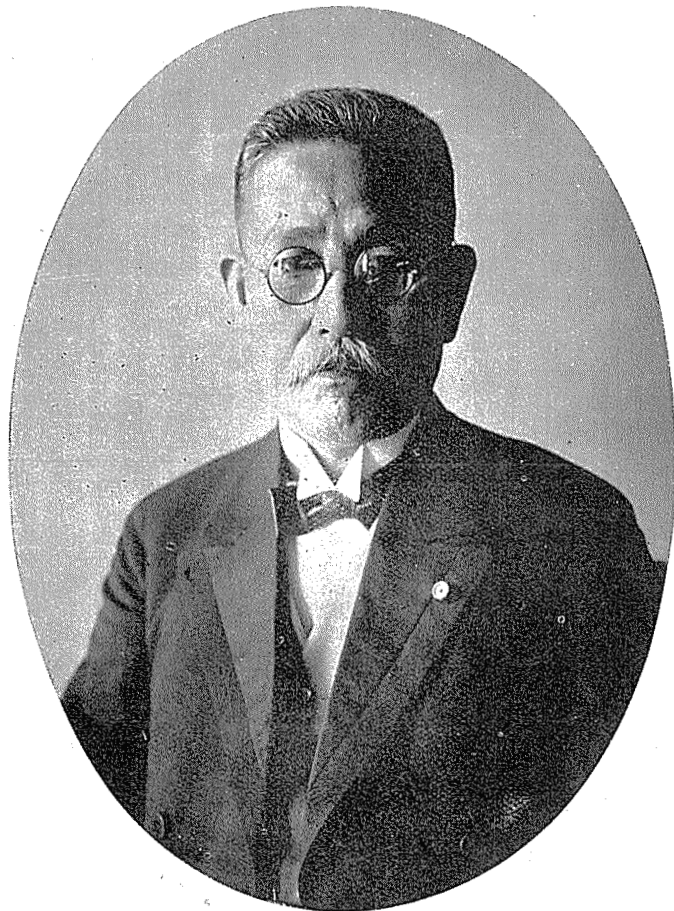
學令發布以前の大學教育は智育に偏して居たのであつて、例へば教授を任用するに當りまして、講義さへ満足に爲し得れば、その人物の如何は多く問はなかつたのである。即ち知識の教授を以て大學教育の唯一の要件とし、教授の人格に依り學生を感化するの必要は殆どこれを度外視したのであります。しかしながら私の考ふるところに依れば、一般教育は勿論大學教育も亦人を作ることに即ち人格を完成するを以て主要の目的とする。只今朗讀せられた松本前學長の告辭の中にも同様の意味が述べられてありましたが、私は全然これに賛意を表する者であります。教育に關する最も古い文獻としてプラトンの國家論がありますが、その中には教育の目的が人を作るに存する趣旨を示して居る様に解せられます。

次に近時我國一部の學生生徒の間には國家の存立を破壊せんとするやうな思想が浸潤し、有爲の身を以て法網に觸るるが如き不詳事を惹起するに至つたことは、衷心遺憾に堪へざる所であります。この事自體は青年一時の客氣として若干恕すべき点があるとしても、

斯かる思想を抱くに就ては能く熟考すべき餘地の多かるべきを思はざるを得ないのであります。私の専攻して居ります法律哲學の理論より觀察し、まして、人類の共同生活はその形式に種ありまして、又その名は時と所に依つて異變すれども、國家そのものの實體は人類共同生活の初よりその萌芽を有し、更に將來に於て恐らく絶滅の期なかるべしと考へられるのであります。即ち國家的生活は人類共同生活の發達に於ける必然的過程であつて、これを破壊せんことは人類共同生活の原理に反するのみならず、又實に人類の福祉、文明の進展を阻害する所以となるのであります。尤も私は國家の今日の狀態を以て満足せよと云ふのではない、唯人類福祉の保護増進の爲めには國家的共同生活が最良且つ必然の方法たることを信じ、國家を否定する思想の採るべからざることを力説せんとする者である。而して國家思想を固持し養成するに當つて各國固有の歴史と國民道德の要求とを以てその基準

と爲さざるべからざることは、更に辨明を要せぬ所でありませう。以上の見解に依つて私は大學令第一條後段の規定は誠にその當を得たものであつて、この點に關しては本學學則第

これを要求して特に各自の注意を促す次第であります。第三に述べんとする所は私の採りつつある學問研究の主義又は原則であります。從來我國多數の學者が殆ど研究方



新學長 仁保 松橋 士

一條の規定を訂正増補することを要するものと見るのである。即ち私は本學教育の方針として智育と相並んで大學令第一條後段の規定を強調し遵奉せんとするのであつて、諸子に對しても亦

法に就て考察を加ふることなく、漠然研學に従事したことは我學界に於ける一大缺點である。私は多少研究方法を考察した結果として、未熟ながら現實的理想主義を採る者であります。この

主義又は原則が計らずも本學に於て採るべき教育方針に相應するものであることを認めて、私は心中欣快を感ずるのである。何故なれば我國に於ける實業の中心として然も益向上發展せんとする大阪市に於て、自然に現實的理想主義の氣風又は思想が發達することは當然の趨勢であつて、本學はこの大阪方面を背景とし、これと密接の關係を有するからであります。然しながら研究方法は各自が自由に選抜すべきものであるから、私は決して私の採用しつつある現實的理想主義を以て諸子に強ゆるものでない。只諸子の参考に資して勧誘の意を偶すること共に、本學の教育に關して直接又は間接に私の表示する言説が現實的理想主義に由來する所少からざることを豫め諒解せられんことを望むに止まります。終りに臨んで切望する、堅實剛毅の精神が强健なる身体に宿ることは諸子の熟知する所である。各自自愛して一層潑刺たる元氣を以て勉學に邁進せられんことを。

階級的觀念形態に於ける社會政策

—社會政策講義の一部—

關西大學教授 岩崎 卯一

目次

- A 序言
- 一 社會政策の現實的傾向
- 二 階級的觀念形態の意義
- B 無産階級の觀念形態における社會政策
- 三 有産階級の欺瞞政策と觀念す
- 四 (a) 餘剩價值搾取の手段
- 五 (b) 労働者の無知に乗ずる狡知的妥協
- 六 (c) 無意味なる美辭麗句の羅列 (以上第五十七號掲載)
- C 有産階級の觀念形態における社會政策 (以下本號掲載)
- 七 無産階級の矯激政策と觀念す
- 八 (a) 共產主義社會樹立の一戰術
- 九 (b) 日本産業の衰退の原因
- 一〇 (c) 古來の傳統的美風の破壊

七

つぎに、現在日本の有産階級的觀念形態において、社會政策がどんな意味をもつて解釋されてゐるかを調べて見たいと思ひます。勿論ここで無産階級といふなかにも、前に述べた無産階級の場合と同じく、幾多の思想的類型を見いだすことが出来ませう。今日、有産階級の中樞をなしてゐる資本家のなかにも、封建日本の殘存勢力である公卿華族とか大名華族とか豪農とかいふ人達の觀念型態と、資本主

義日本の新興勢力である金融業者とか商工業業者とかいふ人達のそれとは、同一に論ずるわけにはのきまずまい。また、今日の有産階級にたいし衛星の位置を占めてゐる小市民階級、換言すれば、資本家が放射する勢力上に寄食してゐる政治家とか宗教家とか學者とか操觚者とかいふ人達の觀念形態は、前のもとの多大の相違がありませう。とくに、最近にいたつて無産階級の勃興が目覺ましく、世界の趨勢もまたこの興隆を援助してゐるかに思はれてゐる際有産階級の方にも、進歩思想を抱くものが漸次増加して來たくらるるですから、有産階級が社會政策を如何に見てゐるかを正しく把握することは可なり困難であると思ひます。

そこで、ここでも、無産階級の場合と同じく有産階級中の最右翼、即ち、無産階級から頑冥不靈だと罵倒されてゐる部分の觀念形態に準據して、その社會政策觀を調べてみたいと思ひます。今、有産階級におけるこの部分の見解を、普選すでに實施せられ穩健なる労働運動また合法化され、さらに社會政策が有産政黨の第一綱領としてかけられるに至つた際、改めて見なほせば、噴飯に價するほど時代錯誤的なものとして撮りませう。が、かやうな見解は、僅か数年前まで、資本家はもちろん、有産階級およびその寄生分子一般を通じて、持たれた見解であつたのです。いな今日といへども、正直にいへば、この種の觀念形態は例外的なものでなくして、却つて典型的なものかもしれせん。

有産階級的觀念形態における社會政策を一言につくせば、無産階級の矯激政策だとしてゐるやうであります。無産階級は、社會主義

思想の世界的浸透と、獨逸帝國の社會主義國家への變革と勞農露國の無産者執政とに刺戟せられ、わが日本においても、之等を追隨模倣し不法にも勞農露國に範を則る共產主義國家の樹立をその本質目的とするも、四圍の事情がこれを容易に許さないので、それに達する一方便として社會政策を提唱してゐるのだと見てゐるやうであります。無産階級にとつての社會政策は、資本主義の城塞を堅めてゐる外濠の觀があります。外より猛烈に征め寄せる無産者軍は、資本主義の城塞があまりに堅固なため、一舉にしてこれを抜きおとすことが出来ないのを悟り、第一の策戦として、社會政策なる妥協的旗色をかけ、第一の外濠を埋めやうとしてゐる。それは恰度大阪城を征めた徳川勢に似てゐる、徳川勢は冬の陣の結果欺瞞的政策を以て外濠を埋めさせ、夏の陣において一舉にこれを陥れた。無産階級の策戦もこれと同巧異曲だ」と有産階級は見てるやうであります。

八

第一 社會政策は無産階級が共產主義社會を樹立する一手段として考察されたものだと思つてゐるやうであります。由來、無産階級が、その壓迫せられてゐる地位を脱却して、壓迫者たる有産階級の堅壘を抜く闘争手段として二つの策が案出せられてゐます。その一は經濟闘争手段であり、その二は政治闘争手段であります。前者は無産階級の中樞を構成せる都市労働者および小作農民が、あくまで經濟の領域において闘争をつづける方法であります。その武器とするところは労働組合の同盟盟または小作人組合の總聯合であつて、同盟

罷工、サボタージュ、暴行、恐怖革命なきを以て有産階級を脅迫し、超法律的手段を徹底的に行はせようとする一舉に無産階級執政の目的を達しようとするのであります。この方法は有産階級國家が未だ充分に警察國家の域を脱却せず、すべての無産階級解放運動を犯罪と見なして嚴重に彈壓政策を執る場合に擇ばれ易いものであります。わが國でも大正八九年頃にはこの機運が極めて濃厚で、労働組合の大部分は、組合の政治進出を是認せざるは勿論、國際労働會議参加さへも否認し、ひたすら所謂直接行動的闘争手段を依頼してゐたやうであります。この當時では社會政策の提唱なきは、労働者首領連が齒牙にもかけなかつたところでありました。この方法は徹底的のやうには見えないがややもすれば國家の共同社會を墓場としてその上に踊るといふやうな危険に陥る憂ひがありますから斷固として排せねばなりません。特に我國においては絶対に賛成出来ません。そこで無産階級の識者中先見の明あるものが敢然方向轉換を唱へたのを一轉機として、後者すなはち政治闘争の手段が擇ばれたのであります。

無産階級の政治闘争は政治の領域で解放運動をつづける方策であります。無産階級はそれが勤勞階級たる純然たる筋肉労働階級たることを問はず、國家が許してゐる政治參與權を利用し、無産政黨を結成し、帝國議會の立法權を掌握することから始め、漸次政權の本體である行政權を襲断せんとする合法的方法であります。これが國でも直接行動的經濟闘争が失敗を重ねつあつた折り、無産階級の政治參與權を認めた普通選舉法が有望になつて來たのを動機に、新に採擇された方法であり

ます。この場合、無産階級政策の掲げる題目の主要なるものは、社會政策の徹底であり、今日勤勞階級黨たることを標榜しつつある社會民衆黨の主張のごときは、ほとんど全部社會政策であります。しかし、有産階級の觀念形態においては、無産階級陣營でかやうな分裂傾向なきは問題にならないやうです。有産階級が現行の資本主義法制の下に恵まれてゐる有利の地歩を脅かすものは、その程度種類の如何を問はず、悉く革命思想に胚胎する危険思想として排斥する傾向があります。とくに社會政策のごときは、何れにしても有産階級に格別利潤を與ふることなく、むしろ有産階級の懐をあてにして無産階級の地位を向上せしむるものが多いから、有産階級の一脅威に違ひありません。そればかりでなく一度無産階級が社會政策の美名の下に有利な地位を獲得すれば、これに決して満足するものでなく漸を追ふて欲求は遞増し、結局は恐るべき社會革命、有産階級撲滅、共產主義社會の樹立にいたらねば止まぬと有産階級が杞憂してゐるやうであります。

九

第二 社會政策の實施は日本における産業の衰退を齎らし、延いて、日本の國力を減弱ならしむものだと有産階級の觀念形態に撮つてゐるやうであります。由來社會政策の重心は勞働階級の地位向上であります。そして、その最も具体的にして直接の施設は、勞働時間の短縮と勞賃の値上と工場設備の改善であります。つまり今日文明諸國で工場法または勞働法の法律形態で表現されてゐる諸施設であります。八時間勞働制の採用とか最低賃銀制

の樹立とかまたは諸種の社會保險制のごときは、その重要なものであります、ところが、これ等の社會政策的要求を採擇實施すれば未だ幼稚なる日本の産業はその發達を阻害され到底先進諸國の進歩したる産業と伍することが出来ないといふのが有産階級が社會政策に反對するため用ゆる口實であります。

前述のやうな社會政策の採用が何故に日本の産業を衰退せしむるか。第一に資本家は、異心同音に生産費の増加と生産額の減少とを強調します。日本は土地狭少天産乏しく八大産業國の一なりと誇りながらもその實貧國の隨一である。自給自足的經濟さへも年年遞増する日本の人口においては至難である。しかるに三大強國の一に伍しその國威を維持するためには世界一の富國たる米國や強國として最も傳統を有する英國と相關的な軍備を整へておかねばならぬ。そればかりでなく産業においてもこれ等の強大國は日本のために恐るべき競争者である。日本はその欲するといふことを問はず、これ等の國との競争を辭するわけにゆかない。なんとすれば現在の世界では國家主義が最後の城壁として世界を分割してゐるからである。かゝる状態において、日本が諸強國を相手に産業的競争をなし兎も角も互角の地位を占めてゐるのは、日本産業における勞力の低廉である。一層詳しくいへば勞働者の数が多く、勞賃が低廉であり、勞働時間が長く、工場設備に費用をかけてないからである。人道主義より論ずれば、勿論喜ぶべき原因ではないが、貧國に生を享ける日本人としては、その生存維持上必然的に負擔せねばならぬ運命である。これ等は日本産業の短所であるがまた長所だとも言へる。日本産業の

發達は大部分これに負つてゐる」とところが、社會政策といふ外國輸入の思想は日本産業におけるこれ等の長所を根本から滅却しようとしてゐる。産兒制限を以て人口を減少させ、賃銀を増加し、勞働時間を短縮し、工場設備に多額の費用を投ずると直ちに生産費の増加に生産額の減少、勞働者の横暴作業能率の激減を來たし、最後には日本産業全體の衰弱となり外國との競争場裡における落伍者となる悲惨を嘗めねばならぬ。かくては、勞働者といふ國民の一部のみが一時的に好地位を得てもそれは結局國家を墓場に、その上に踊るものである。末梢神經的の刺戟に興奮して、中樞神經を死滅せしむるものである」これが有産階級をして、社會政策に反對せしむる有力な一資材であります。

第二に資本家は口を揃へて、社會政策の採用を以て、企業心の減退と企業資金の枯渴とを訴へます。資本主義經濟組織の長所は短所を償ふて餘りある。このことあればこそ資本主義は今日のごとく著しい發達を示したのである。しかればその長所とは何か。私有財産制度の確保と自由放任主義の徹底である。所有欲が人の本能でありこれあるがために人が寢食を忘れて活動する以上その本能は極度に尊重すべきである。衣食の資に困却せない資本家が、ごまかでも、より以上の財を集積せんがために活動するは、この所有本能の發露であつて、決して奪ふふことの出来ない自然事實である。しかるに若しも、社會政策を以て無産階級の經濟的地位を向上せしむるとせばその資源は有産階級の私有財産の掠奪にあらねばならぬ。高率の所得税、財産税、相續税などの徵稅方法を以て折角資本家が蓄積した資

財を掠奪すれば、有産階級は最早利潤獲得の爲め企業に對する熱度なく且つ企業資金そのものも枯渴してしまふことになる。結局社會には資本なく又活氣ある企業精神も稀薄にならざるを得ないやうになり、最後には産業それ自体が衰滅するにいたる」

「一體、資本家は餘剩價値の分配にあつて、地代、利子、利潤といふがごとき名儀で勞働者に比し遙に有利なる分前を取得し、これを、自己の享樂のため無制限に使用しつつあるがごとく見られてゐるが、これは誤解も甚だしきものである。宏壯なる邸宅、華麗なる服裝、潤澤なる食物、それに蓄妾遊蕩なきが資本家の徵標のごとく見做され資本家は贅澤そのもののやうに考へられてゐるが、これ等は資本家の富の使用の一小部分を占むるに過ぎない資本家の富の大部分は生産資金として富の生産及び再生産に絶えず運轉されてゐる。それ等の資金には利潤も伴へば又損失も隨ふ。したがつて、資本家の大部分は常時危険負担に曝されてゐる冒險的企業者である。この人達が、自己の富を喜んで提供すればこそ産業は活氣を呈し一國の富は増加するのである。しかるに、國家社會主義のごとき新方針のもとに、社會政策を徹底的に實施すれば資本家は全部萎縮し、事業の運轉資金は、何等自發的活動精神なく單に法規的機械的執行者に過ぎない官僚的役人の手に握られ、能率は低下し、産業は衰退し結局諸外國との競争においては落伍者となる。商鑑遠からず、新經濟政策採用前の勞農露國を見よ」と有産階級は雄辯に説きます。

第三に資本家は、社會政策の採用を以て、勞働階級を怠惰ならしむることを力説します。「今

日無産階級のスローガンになつてゐる生活難は、それが事實であるかきうかは別問題として、日本の將來の上から見て必ずしも悲觀すべき資料ではない。艱難汝を玉にすといふ諺のやうに國民の大多數が生活難に脅かされるも、これを脱却せんがために、一層勤勉に働く習慣が國內に充満するときには、一國の興隆は疑がない。とくに日本のごとく國貧しくしかも絶えず強國の壓迫を受けてゐる國家では、常時國難來の状態にあるといはねばならぬ。かかる場合國民が貧乏に耐へる習慣をもち激烈な勞働苦を忍ぶ風習をもつことは、絶對に必要である。一朝有事の時、如何なる困苦にも打克つ習慣は平時に養成しておかぬばならぬ。日本の現状はスバルタに同じだ。スバルタ式の生活こそ國民の大多數を占むる勞働階級に相應はしい。しかしるに、社會政策は賃銀の値上とか最低賃銀制などを以て勞働階級に贅澤を教え、勞働時間の短縮、失業保険制などを以て勤儉の美風を失はしめる。つまり、生活程度の向上といふ美名の下に無数の遊惰徒食の徒を輩出する。よつて、想像を逞しくすると、社會政策のごときは、日本の勃興を嫉視嫌惡する歐米諸國が日本の産業發展を阻害し、世界競争場裡の落伍者たらしめんとする一種の毒瓦斯である。國際勞働會議のごときは、歐米諸國の資本家と勞働者が秘密に結託して、日本の産業を衰退せしめようとする一種のからくりではあるまいか。資本家階級は上のごとく觀じてゐるやうであります。

私は、社會政策の國際的普及を企圖する國際勞働會議に二回列席しました。第一回と第五回とであります。何れも勞働代表側のために

微力をつくす立場にありましたが、その會議の全般を通じて、日本の資本家代表の意見がこの項に述べた有産階級觀念形態なることを確めたのであります。資本家の頭腦には、日本の急激なる興隆を以て産業立國策の結果なりとし、この結果を招來せしめたものが資本家であるから、國の將來を憂ふる念においても資本家のそれは勞働者のそれに比し遙に強烈であると映じてゐるかに思はれました。これ等の人は産業立國の主張する資本家の立場を愛國者の立場に置き社會政策を要求する勞働者の立場を非愛國者の立場に置いてゐるやうであります。したがつて前者は如何なる場合にも日本の特殊性を力説し、國際勞働立法の日本に對する除外例を求め、後者は終始一貫世界の大勢と人道主義とを強調し國際勞働立法の日本における完全なる實施を主張してゐました。いづれにしても、社會政策が日本の産業を衰退せしめ、延いては折角世界の強國の班に列した新興日本をして第二



(照參報内學誌前) 發出の生學留村中

のポルトガル又はオランダのごとく低下せしむる有力な原因であるとは、今日といへどもなほ多くの資本家を支配してゐる思想のやうに思はれます。

第三 有産階級的觀念形態における社會政策

は日本古來の傳統的美風たる温情主義を破壊し、延いては國體の精華を冒瀆する恐れあるものとして映じてゐるやうであります。現在の日本は勿論資本主義國家であります。しかし、僅か半世紀前までの日本は、數百年に亘る封建主義的社會制度の鐵鎖に縛られ、その生活條件ばかりでなく、その生活心理までも、完全に主従關係を中樞とする封建思想に化せられてゐたのであります。天皇を

雲上に置き士農工商を地上の階級組織とし、この階級は武士と平民とに二大別されその間に嚴に階級の周流が禁ぜられてゐました。大小名の子孫、武士の子孫はその賢愚を問はず、いつまでも平民の子孫の上位にあつて、その

威風を保持することが出來たのであります。その間に上位階級たりし武士にはその生活環境に順應する武士道なる特殊の觀念形態が發生し、下位階級たりし平民には同じ理由で特殊の平民道なる觀念形態が作りだされましたが、武士階級といへども、平民階級の生産によつて、その生活資料を得ねばならぬ必要上兩者の間に何等かの連絡關係がなければなりません。それが温情主義でありました。勿論温情主義といふ心理作用だけで階級間の連絡がつくものではありません。武士階級の優越を確保せる武力の脅威が背景に潜在してゐること必要とします。が、一度確立された兩階級とその間をつなぐ温情主義とは時の経過に伴ふて、鞏固なる傳統となり更に美風とまで讃仰せられるやうになりました。これを、異つた時代において、そのまま踏襲利用してゐるのが、今の資本家であります。

生産方法の變革は産業革命を發生し、産業革命は舊い封建主義國家を漸次崩壊してその上に資本主義國家を建設しました。そして、特權階級であつた武士がその姿を沒したと同時に新らしく資本家なるものが舞臺の前景に現はれ、前者の地位を受け継ぎました。封建大小名の代りに金權大小名が生れました。封建平民の代りに無産大衆が出來ました。有産階級と無産階級とです。その階級構成分子にこそ全く變更がありました。が階級の對立關係と上下關係とは依然として同じであります。ところが新裝をつけた特權階級たる資本家は、前者が残した兩階級間の連絡たる温情主義だけは其の儘利用しようとした。資本家を

主とし、労働者を従とする主従関係、これを日本古来の美風たる傳統なりとするのが資本家の主張であります。

社會政策は、労働階級の獨立的な労働組合を奨励し、その團結権の確立によりその地位の向上することを認むるものであります。資本家を主とし労働者を従とするがごとき傳統を全然認めず、兩者を對等に置けばかりでなく、むしろ兩者を打つて一丸としようといふ究極理想を抱いてゐるものです。そこで、封建時代の遺風たる温情主義や初期資本主義時代の名残たる協調主義を等しく排するものです。かやうな社會政策は封建時代の主従關係と温情主義とを、今日においても維持存続せしめようと思念してゐる資本階級に喜ばれる譯はありません。従である労働者が主である資本家と平等に對立しようと企圖することが既に傳統を破壊し美風を傷けることである。忌憚なくいへば、一種の反逆思想である。主人の恩恵を無視する背德思想であり最後に主従關係を以て貫いてゐる日本國體の破壊であると資本家は見てゐるやうであります。

正 誤

▼前號第一〇頁第一段學内報記事「商業史……堀正人」ごあるは「英文學……堀正人」の誤につき訂正、御迷惑をかけた堀先生に御詫致します。

▼前號挿入の寫真中、第十三頁の分と第十五頁の分とが組み誤りになつておりました。即ち第十五頁の寫真が第十三頁に入るべきでありまして、夫が本年度學部卒業生の寫真、第十三頁のは本年度専門部經濟學科卒業生の寫真であります。ここに訂正して編者の不注意に對し讀者諸氏に深く御詫する次第であります。

千里山俳壇

朝冷選

千里山 西岡澄仙

夕霞立つ山寺のさくら花

麥畑に雲雀下りたり雨の中

裏藪や目白が落す白椿

順禮のうしろに鳴きし雲雀哉

卯の花に夕の鐘の響きけり

第二商一A 白 い 鴉

衣更へてかしの良なる男哉

女答へす柳の糸を結びけり

近江 本 出台 水

春寒き安土の城に上りけり

春雷や藪の狭間の觀音寺

港區 清原俊之助

西の京御陵につづき梅林

雨晴るる二階に近し春の山

登り行く生徒の列や春の山

干夜具の綿のふくれに陽炎へり

猫柳ほほけて宇治の河原哉

返り汐あびて蛤にじりけり

山越えし疲れを花の温泉哉

校友 拜野 春葉

夕風に櫻がざして戻りけり

追加 朝 冷

岩に据して海はろかなりつつじ山

金雀花の儂金明るし春の雷

當季雜詠募集

氏名明記 封皮には必ず「千里山俳句」と朱記の事

送稿先 大阪市東淀川區中津濱通五ノ三二

有 田 朝 冷 宛

學者並社會運動家

としてのアーノルド・トインビー

ド・トインビー

關西大學講師 辰巳經世譯

この小稿は L. I. Price, A Short History of Political Economy in England - From Adam Smith to Arnold Toynbee, ch. VIII, Social Reform of the Half (pp. 183-196) Arnold Toynbee に関する部分の抄譯である。同章の前半は Henry Fawcett (1833-1884) に関する部分であるが、譯載の主要目的外であるから省略した。譯載の目的と言つても格別明確なものがあるわけではないが、恰も譯者が本學年中本學専門部經濟學科第三學年に於てトインビーの遺著 The Industrial Revolution of the Eighteenth Century in England を講讀することになつたので、多少學生諸君の参考になるであらうと考へたのがその一つであり、「學問の實際化」「理論と實踐」「研究と實際運動」等の言葉が、近時特に、それぞれ種種の意味で、種種の場合に喧しく用ひられてゐるので、この方面に關する何らかの示唆を求めんとするの他の一つである。譯文は必ずしも原文に忠實とは言へぬ、寧ろ多少原文を離れるところがあつても、原著者の關心を害はない限り、邦語として讀み易きものたらしめやうと努めたからである。

アーノルド・トインビーの生涯は極めて短いものであつた(1)。だが彼の力強い影響力は、依然としてその中に彼を残存せしめてゐる。彼の社會改造に對する初期の傾向は、種種の意味に於て、甚だ進歩的であつたその父から受

入れて居つたやうである。初め彼は軍隊生活に一種の憧れを感じて居つた、彼が社會的不公正及び壓迫に對して抱いて居つたと思はれるところの嫌忌、鬭争性をこの傾向に歸するのには、必ずしも全然無稽なことではない。二年間彼は兵學校に學んだ、だが聽てその撰擇が誤つて居つたことを覺へてそこを去つた。十八歳の年一年間を、彼はドーセットシアの一寒村に隱遁獨居して、歴史哲學の研究に過した。ここに吾々は一社會改革者の天分と志操とを探ることが出来るであらう。二年の後彼はオックスフォードに行つた、そこで彼は、かの古風ゆかしく且つ美しき學筵から與へらるる深い感激の下に日を過した、而もそは特に彼の同情深い想像力に富める性格に一種の感應を起させる適して居つた。彼はその最も顯著なる天稟であつたやうに思はれるところの、強く他人を牽きつける力を發揮し初めた、同時に智的友人たちとの同氣相求むる交りに依つて、彼は崇高なる理想と大志とを形成して行つた。『生活上の地位に關して、私が得んと欲するところのものは、正義に對する渴望で燃ゆる人間のそれである』と彼自ら言つてゐる。彼はその生涯をつきまとはれた病弱の故に、榮譽を得んがために讀書することを妨げられた、けれども、卒業後間もなく、彼は印度の役人として派遣せらるる試験たちの助教に任命せられてバリオル・カレツツに留ることになつた。

(1) 彼は一八五二年八月に生れ一八八三年三月に死んだ。

彼は特に經濟學の研究に没頭した、而も彼は絶えず、印度政府の將來の管理者たちの教育

といふ責任を心深く留めて居つた。彼が研究上「歴史的方法」の助を藉りて、古い經濟學者たちがその裡に於て種種の學說を創造したところの環境を示さんとし、更にそれらの他の國及び他の時代への適用の連關性を強調せんと努めたのは、少くとも一部分はこの理由に基くものであつた。然し彼の經濟學的研究は、又彼が英國そのものに於ける社會的改革を豫見せる熱望に依つて誘導され、刺激されたのもあつた。彼は貧民階級の生活及び感情と親しまんがために、ホワトイチヤペルの下宿に幾時かを過した、更に、自分が演説の能力を有することを知らず、ブラッドフォードその他の工業都市に於て、労働者や雇主を聽衆として經濟問題に關する幾多の演説を試みた。これらの即席演説のために敢てした無理は、他の幾多の關心及び勞作と相俟つて、元元脆弱であつた彼の健康を消盡してしまつた、かくて、一八八三年ロンドンに於てなしたるジョージ氏の「進歩と貧困」に關する二回の講演の後、彼は病魔に襲はれて再び起たず、七週間に於て遂にその現身を地上に止めざるに到つた。

彼は僅かに三十歳にして逝つた、従つてこの事實が、彼の著述を判斷するに當つて考慮されなければならぬ。彼の諸述作は多くの場合、愛惜と深い注意とを以て編纂されたが、彼自身に依る校正の機會を有しなかつた。それらは斷片的なものであり、且つ今少し熟考すれば容易に取除き得た筈の、明かなる矛盾も含まれてゐる。然しそれらは、經濟學的文獻に關する最も魅力ある斷片の或ものを形成してゐる、更にそれらは感激性ある、而も

論理的な熱心さに満ちてゐる。彼の述作は、これらを蒐めて編纂された書物にそのタイトルを附してゐる『The Industrial Revolution of the Eighteenth Century in England』に關する講義を初めとし、Ricardo and the Old Political Economy なる題目の論文、Wages and Natural Law, Industry and Democracy 及び Are Radicals Socialists? なる演題の三つの公開演説、竝に若干の小斷草から成つてゐる。

彼の述作だけでは適當に提供し得なかつたところの影響力を、彼自身の人格が充分に發揮した。峻厳ではあるが親切な一裁判官は「彼の生涯に於ける眞に興味があり且つ顯著なことは、彼が實際に生み出したものではなくて、彼そのもの、即ち彼の純真と無私、彼の濃厚にして魅力ある模範、彼が他の如何なる人にも似てゐないことそのことであつた」と述べてゐる。又マーシャル教授は、彼を『中世の聖者の近代的表現』となし「凡ゆる點に於て強くはあつたが、彼の性格の凡ての他の部分と共に、神及び人に對する眞剣にしてやさしい愛の中に没入して居つた」と述べてゐる。異つた階級者間の同情と交際とを促進するため、及び智的教養の影響力及び利益を伸長せんがために、英國の大都市中の或もの貧民區域に於て、何年間か設置されて居つたところの大學「セツツルメント」は、少くとも一部分彼の記念に成れるものである。兎に角、これらのセツツルメントの最初のもの、如何なる名前に對しても、トインビーのそれ以上にはさし結びつけられ得ないとい一般に考へられた。彼は本質的に一個の社會改革者

であつた、彼に取つては、社會の實際的進歩が、凡ゆる學問的研究の終極の目的であり又原動力であつた。

經濟學の理論と實踐との間のこの關係は、時とすると誤解せられた、而して、この誤解を避けんとしてケアンズは、社會改革問題に於ける經濟學の態度は中間的なものであるといふことを主張した。彼は經濟學が「天文學、力學、化學、生理學等が科學であると同じ意味に於て科學である」ことを主張した。「一般に承認せられたる自然科學の目的は、確實なる効果を得ることでもなく、一定の論題を證明することでもなく、實際的計劃を擁護することでもなく、單に光明を賦與することであり、自然の諸法則を明かにすることであり、如何なる現象が相次で見出さるるか、如何なる結果が如何なる原因に伴ふかを吾吾に教へること」である。同様に、經濟學は「富」に關する「諸法則」を「明かにする」。『それは社會的若くは産業的存在に關する凡ゆる特定の制度と離れて立ち』『凡ゆるものの中に於て、更に一層絶對的に中性である。』それは「完全なる見解の形成のために材料」を供與する、然し、これらの材料は「吾吾の判斷を決定するに到る」場合あると同時に「それらが必然的にさうする譯ではなく、又實際に於て常にさうするとは限らない。蓋し、純粹に經濟的—政治的、道德的、教育的、藝術的方面—以外の方面を示さない實際問題は殆どなく、而もこれらは純粹に經濟的な解決に反して規模を變更するに至る程に重大なる結果を齎すことがあるからである。かくの如き相矛盾する考慮の相對的重要性に關して、經濟學は何ら

の意見をも提供せず、何らの判斷をも下さず」かくて「相競争する社會的分類の間に中間的に立つこと」恰も「鐵道敷設に關する相競争する諸計畫の中間に力學が立つ如くである、後者に於ては、例へば、費用が力學的能率と共に均しく考慮されなければならない。』「それは凡ゆるものを批判するための手段を、若しくは、もつと正しく言へば手段の一部分を提供する、それは何ものとも同一視されることを拒む。』「それは自由放任主義と共になすべきものを有たねば、共產主義と共になすべき何ものをも有たね、契約の自由と共に、封建的政府と共に、乃至は分限制度と共に。』「そが吾吾の現在の産業制度と何の關係もなきこと、恰も力學が吾吾の現在の鐵道に關する制度と何の關係もないと同様である。吾吾の現存の鐵道は最善の現存力學的知識に從つて敷設せられたのである、然し吾吾はこの事情のために、吾吾の鐵道線を改善する序幕として力學を批難することが必要であるとは考へない。』而も尙ほ「産業生活に關するその理想が、吾吾の現存制度の制限を含むところの或社會改革者たちは、彼ら自身が、實に産業生活の現存形態を定型化せんと努むるものとして經濟學を批難し、愚弄する使命を有するかの如く考へ、従つて勿論それらの見解に反對した。』然しこれは全然間違である。』

恐らく他の如何なる學者よりも、ケアンズに依つてより明瞭且つ強力に述べられてゐるこの議論は、トインビーも承認してゐる通り、重要且つ暗示的である。それは屢忘れられ、又は無視されがちであるところの考慮に必要な重點を賦與してゐる。それは經濟學の『諸法

則』が一定事實間の關係の論理的説明であつて、命令的な氣持で推しつけられる實際的教説ではない。若し諸法則が依存するところの諸事實が變化するならば、これらの諸法則が依然として有効であるための條件は、それらが相當の變化に甘んじて従はなければならぬといふことである。而して、時の経過及び知識の進化に従つて、多くの經濟的「法則」が依存するところの諸事實に關する經驗は、人間それ自身が「不斷の」不變的現象でない如くに、延長し變化しなければならぬ。この議論は又、經濟學と政治家としての技能及び慈善との間の區別を確立してゐる。而してそれは純粹に經濟學的な考慮以外のもののみが、實際問題の決定に参加し得るといふことを示すのに有用である。然しながら、それは理論と實踐との間の區別を餘りに甚しく立て過ぎるといふことの、及び吾々の研究的意志に依り吾々の實際的行動の上に及ぼさるる効果を過少に評價することの危険に臨んでゐる。この中間性の主張は實際的には不可能である」とトインビーは言つてゐる。

事情の許す限り、注意深く吾々の學説を形成し、絶えずそれらの結論を實證することの必要を、彼は固執してゐるやうである。研究方法に關して、演繹的方法と歴史的方法との間には『眞の對立』はないと彼は考へてゐる。『明白なる對立』は『演繹法の誤用、即ち嚴密にその假定を檢討するためにそを用ひ、その結論を事實の檢討にまで齎すといふ役割を無視することに因由するものである』。歴史的方法は必要なる修正を提供する。それは『經濟的發展の實際的原因を探究し、中世のギルド、

吾々の現在の土地法等の如き制度、若くは富の分配の決定に關する或一定の國の政治組織等の影響を考察する』。『更に、それは一定の國に於ける經濟的發展の諸階段を研究するばかりでなく、それらを他の諸國及び他の諸時代に現れたるものと比較する』。『吾々をして如何なる箇所にて經濟的法則と教説とが相關連するかを知らしむるの故に價値が』ある。『抽象的な提案は彼がそれを提出した時に、その著者の前に在つたところの事實と相關的に研究された時、新しい光の下に見られるのである。かくの如くに考察せらるるならば、それらは直ちに一層目に見る如く明白となり、且つ誤りを犯すともより少くなるであらう』。叙上の見地に立つて、トインビーは古い經濟學者たちの教説を研討してゐる。彼は第十八世紀の末葉から次の世紀の初頭にかけて英國に齎されたる『産業革命』の過程を跡づけてゐる。彼は、如何にアダム・スミスが、古い時代の秩序や制度の殘物の中に在り、原始的單純さと『自然的』自由の恢復の要求に染み込み、神の力と命令とが個人を支配することとを信じながら、彼自身の利益を自由に追求し、而も意識的乃至無意識的に共同の幸福を促進せんとする、この革命の暗夜に住んでゐて、非常な熱情を以て人爲的障壁の打破と『自然的自由』の完全なる樹立を主張せるかを明かにしてゐる。それは彼の時代の最大の必要事であるかに見えた、而して彼はそれに續ける時代に於ける自由競争に伴へる弊害を目撃するまでは生きてゐなかつたのである。

彼を繼ぐ者にマルサスがあつた、マルサスは『自然的自由』の爾く充分なる支持者ではなかつた。然し彼が收穫遞減の法則に就て書いた時には、驚くべき眞實性を以て英國の農業に妥當しつゝあるものの如く見え、又人口は絶えず増加しつゝあつた。貧民階級が國富から與り得たる分前は益少くなり、賃銀はほんの生命を支へるに足るに過ぎぬまでに下向して行つた。だが、英國に於ける事情はかくの如く悪いものであつたが、それでも外國よりはましであつた、而してこの理由は、英國の蓄積されたる富、即ち資本の大量に存するかに見えた。そこで彼を綜合してマルサスは、賃銀は既に蓄積されて居るところの資本に依存するものであり、これを上騰せしめる唯一の方法は、この資本を増大させることか、人口を減少せしめることであるといふことを暗示した。——彼がこの學説の『創始者』であつて、ただ後の經濟學者たちがその直接の唱道者であり得たに過ぎぬとトインビーは主張してゐる。これが『賃銀基金』説の始まりであつた。

リカルドはマルサスと同時代人であつた、彼が Principles of Political Economy and Taxation を書いた時、リカルドはその周圍に繁忙な休むことなき世界を見た、従つて彼の學説は競争の一般的普及に基礎を置いてゐた。この學説に従へば、人口の増加に従つて、時代は上騰し、賃銀は『略現狀を維持し』、利潤は下落するを常とする。總てこれらの經濟學者たちは、彼ら自身の時代に於いて特に顯著であつた事實に導かれ、この特異性を基礎として學説を打ち樹てた、然しながら、その後他の事實が顯著となり、従つてその學説は變更を必要とするに至る。

リカルドの地代説は、それが事實に適用せられる前は、制限の必要に當面してゐる『賃銀基金』説が問題となつてから後に、アメリカに於て新大陸が植民されるに至つた、そこではエフ・エー・ウオーカーが明瞭に示してゐる通り、元から資本の蓄積されたものはないが、收穫の遞減よりも寧ろ遞増を生ぜしめたる處女地があつた。前以て賃銀を支拂ふべき何らの手段も存しなかつたが、結局に於てより高い賃銀が與へられ得た。従つてその見地は變更せられた。それは次のやうに考へられた、即ち賃銀は資本から前以て支拂はれ得るが、雇主は——その機能が資本家のそれと異るといふことが顯著となつて來て居り、彼らの各別の重要性が、より近時の經濟學者たちに依つて正當として承認せられてゐる——彼の生産物が賣れるであらうと思はれる價格を考慮し、それに従つて賃銀を出すを常とする。人口の増加はそれから賃銀が支拂はれるところの資本を侵害して個々の労働者の分前を減少せしめるどころでなく、發達せる分業及び労働組織の手段に依る生産の増大に依つてこの分前の増大を齎すものと思はれた。同様の結果が労働者そのものの能率増進からも伴ふものと思はれた。彼は實際、最早昔日の如く結局彼が習慣づけられて來たところの『生活標準』に従つて妻子を養ふに足るよりもより少く受くるだけで満足しない。彼は又結局、それなくては彼らの協力が齎らさるべきものでないところの、資本の利子及び企業利潤を資本主及び雇主たちに與ふるに充分なるものを残す以上に受取れるものでもない。然しこれらの限界は兩方とも弾力性あるものであ

つた。而してこれらの限界内で賃銀は、輿論の同情、法的制限の除去、法的保護の支持、乃至は團結の手段等が、時時一方又は他方をより強からしむるに従つて變動するものであつた。これらの諸方面に於て、トインビーは、如何に吾吾が事實の影響に依り、賃銀説に於て比較的強力なき「賃銀基金」の觀念から離れしめたかを示した。

第三に、而して最後に、彼は吾吾が同様の仕方が『自然的自由』に關するアダム・スミスの主張を検討し得ることを指摘した、而してそはここでは特に、歴史的方法が社會改革に重要な關係を有するといふことである。後の方の知識及び問題は、個人的自由の或種の制限の必要若くは少くとも利益であることを示したかのやうである。如何なる經濟的力も彼ら自身からそれを除き去るやうには思はれない不利益のために苦しんでゐるところの、産業に従事してゐる人人が、若くは少くとも婦人及び小兒がある、而して同等の産業的競争者たちに適してゐるところの、かの自由競争は、それが不平等な地位に在る人人の間に行はるる場合には、禍害に満ちたものとなり得る。吾吾は、完き且つ自由なる發展の機會を各個人のために確保するやう努力しなければならぬ、而してこのことは法制的保護及び助力と、同様に法制的制限の廢除の意を内含するものである。吾吾は、人人が常に彼らの眞の不斷の利益を知るものとも又求むるものとも信じ得ない。彼らは利那の感情に依つて盲目になるものでもあり、又無智及び弱者でもあり得る。吾吾は又、個人の利益が常に必ず社會の利益と一致するものとも考へない、蓋

し彼が自分の行爲の終局の結果を收得するとは限らないからである。

例へば、若し吾吾が教育問題を例に取るならば、吾吾が、その子供たちの教育に就て両親の利害に安心して倚賴し得るか否かは疑問である。親たるの愛情が弱く場合には、その教育に依つて齎らざるる子供たちの能力の増大から得らるるであらうところの將來の金錢的利益に對する豫想が、親たちをして何程かの直接の支出をなさしむるを常に充分であると吾吾が信じ得るであらうか。彼らが無智にして且つ貧困である場合に、彼らが善良なる教育といふことに關する、彼ら自身の若くはその子供たちの利益を、辨識することができ、且つ確信することができらうと吾吾が信じ得るであらうか。かくの如き考慮が國民義務教育の得策なることを暗示した、而してそはフオーセツト及びトインビーの兩者とも是認するところであつた。然しトインビーは「自由教育」に對する諸提案に喜んで同意したかも知れぬが、それらは、個人的責任を弱め、自發的努力を挫くものとして、フオーセツトの疑念を招き反對に遭遇するを常とした。

更に激情又は偏見の影響、若くは利那の直接利害關係は、人人をして、動もすると彼等の眞の永久的なる利害に盲目ならしめるものである。正直は結局に於て『最善の策』であるかも知れぬ、然し主吾は相變らず不正混合やいかさま普請のことを耳にする。前世紀の初期中諸工場に於て過度の勞働に従事して居つた兒供たちは、その末葉に於て、より有能な勞働者たちであることを示したかも知れぬ、

だが彼らはより人間らしい、思ひやりある待遇を受けたであらうか。然も、親切ぶりを示した雇主たちは、その兒供たちが他の諸工場へ行つてしまふかも知れないが故に、彼ら自身その利益を收め得ないかも知れぬといふ事實には頓着せぬとしても、時時の差し迫つた必要、及び彼ら自身の個人的な直接の利害が、彼らをして——これは親たちも同様であるが——兒供たちの永久の利害及び全體としての國民の利害を無視するに到らしめた。かくの如き考慮が、工場法といふ我國(英國)の精巧な法典を誘致した、而してトインビーはこの法典を成年婦人に及ぼすことに賛同したが、フオーセツトは、個人的獨立を暗暗裡に害ふかも知れぬといふ懸念から反對した。

然しトインビーが示した如く、自由放任説には、個人の利害と社會の利害との間に、及びこれらの利害の存在と是認との間に『架橋されなければならぬ間隙』がある。『この間隙は決して架橋され得るものではない。この主張の支持者は目をつむつてそれを跳び越える』とケアンズは言つてゐる。國家の干渉は、社會の永久的利益を確保するために、現在の失費をして將來の利益ならしめるために、及び弱くして無智なる人人を助けて完き發展の機會を得せしめんがために、時とする必要である、而もこれらのことは、凡ての者の窮極の利害となるものであるが、極く少数者に取つては直接の利益の犠牲ともなり得るものである。トインビーが支持した國家のこの仕事は將來に於て増加されるであらう、而して彼は、『自由貿易及び自由契約の時代は去つて、管理の時代が來た』とまで言つてゐる。

このことは然し、無理もない過度の強調に過ぎなかつたやうである、而して彼は如何なる意味に於ても「大陸社會主義」の極端に走ることを好まなかつた。『吾吾はかの昔の獨立、吾吾が正にそれを誇りとしてゐるところの自發的結合の習慣を暗暗裡に害ふことなしに、これらの方策を實行しなければならぬ、蓋し、若し吾吾がこのことを——英國の勞働者をして自ら救貧所に入らざらしめんがために凡ゆるものを犠牲となさしめたところの、勞働者たちをして彼ら自身の友愛組合、勞働組合、協同組合等に團結せしめたところのこの誇り——を暗暗裡に害ふのであるならば、然らば寧ろ吾吾の事業を成し遂げない方がましである』と彼は言つてゐる。『競争はそれ自身では良くもなければ悪くもない。そは研究され、管理さるべき一勢力である』。

彼は實際的進歩に對する凡ゆるその熱情を以てして、而も尙ほ理論的研究をもゆるがせにしなかつた。彼は事實、或經濟者たちが探つたと彼には思はれたところの、堅い、非感情的な態度を持驗することはできなかった。彼らはまるで彼らのみが正しい學說の標本でもあるかの如く、人類をして——死でないまでも——苦痛を免れ得ざらしむる事柄に、就て、平氣で語つてゐるやうに見えた。彼らは冷かなる批判的檢討者の立場から、人人の喜びと悲しみとに關する人間劇を觀てゐるかのやうに見えた。若し一人の男が流行の戯れに依つて職業を失つたとしても、彼らは喋喋と勞働の可動性に就て喧つた。若し一婦人又は小兒が、或工場に於て過勞に陥つたとしても、彼らは得得として、かくの如き事實が續くと

結局雇主の損であるから、彼は引き續いてそれをやるやうなことはないであらうと主張した。然しトインビーの性質は餘りに同情深かつた。彼は男子も、婦人も、小兒たちも感情と知覚、同情と反情とを有すること、及び一ペニー多く儲け得るところでさへあれば、彼らはここかしこへ運ばれるのに、羊毛の包程にも有利に問題にされ得ないといふことを識り且つ感じた。

然し彼の感情はそれにも拘らず、眞面目であることに依つて和せられた。彼は注意と、忍耐と、知識なくしては、社會改革は利益よりもより多くの禍害を齎すであらうといふことを承認した。彼はマルサス自身と同様の非常な熱心さを以て、曖昧なる救貧法を注視した。彼は最も偏狹なる學派の經濟學者と同じやうな甚だしい極言を以て、民主的革命的社會主義者たちの奇矯な行動を非難した。彼は自分がなした講義に於て、ヘンリー・ジョージの誤謬を曝露した、又彼の一公開演説に於て、彼は辛抱強き餘蘊なさを以て賃銀率に影響を齎らす異なる諸原因を分析した。彼はさうかと言へば、多くの經濟學的研究を怠してゐた、然しそは無心、無情であることなく、人間生活の各種の利害關係を考慮に入れ、且つ實際的行動の結果するところの研究でなければならぬ。彼は事實、個人的自由を對し國家の干渉を増大することに左袒した、そしてその限りに於て彼は社會主義者であつた、然し彼の社會主義はフォースェットが組したかの個人主義の反對であるよりは、寧ろもつと適切に言へば、補足であつた。

『私の解するところでは、かの急進主義はか

うである、吾吾は自由、正義、自助に關する吾々の古い信仰を捨ててはゐない、だが吾吾は或狀態の下では、人人が彼ら自身を助けることができず、従つて彼らは直接に全人民を代表するところの國家に依つて救はれなければならぬと言ふのである。この國家が救助をなすに當つて、吾吾は三つのことを條件とする、第一はその事情が何よりも社會的必要であるといふこと、次はそれが實行し得べきものであることが明かにされねばならないこと、第三は國家の干渉が自憐心を減少させてはならないことこれである』と彼は言つてゐる。

『吾吾は、吾吾が賛成する限りに於てはトリー黨式社會主義と異なる、即ちバスターナル・ガヴァメントでなくてフラツターナル・ガヴァメントでなければならぬ、又吾吾は大陸的社會主義と異なる、蓋し吾吾は私有財産の原則を承認し、没收及び暴力を排斥するを以てである。』『國家行動に對する必要の不承不承の認容に對して、吾吾は燃ゆるが如き正義の信念と、深い精神的な生活理想とを結合せしめんと。』
一九二八・四・二四

學則改正追加

別項所報學則の一部改正に伴ひ學部並大學豫科及び專門部學則第一條を左の通りに變更した(この項學内報)。

學部並大學豫科學則第一條 本學ハ法律、政治、文學、經濟及商業ニ關スル學術ノ理論及應用ヲ教授シ並ニ其濫與ヲ攻究スルヲ以テ目的トシ兼テ人格ノ陶冶、國家思想ノ涵養ニ留意スルモノトス
專門部學則第一條 本大學專門部ハ專門學校令ニ據リ高等專門ノ學術ヲ教授シ兼テ人格ノ陶冶及國體觀念ノ養成ニ留意スルモノトス

學内報

法文學部文學科開講

かねて學則を改正して開設準備中であつた法文學部文學科は豫定通り本年四月の新學年度から開講せられた。科を分つて哲學專攻科と英文學專攻科の二とし、學科課程を左の如く定めた。

哲學專攻科

第一學年(必修科目) 哲學概論、倫理學、心理學、東洋哲學史、(撰擇科目は外國語を加へて四科目以上)

第二學年(必修科目) 西洋哲學史、美學、美術史、宗教學(撰擇科目は外國語を加へて四科目以上)

第三學年(必修科目) 佛教哲學、西洋哲學史、東洋哲學史、(撰擇科目は外國語を加へて四科目以上)

英文學專攻科

第一學年(必修科目) 文學概論、英文學、英語學、(撰擇科目は外國語を加へて四科目以上)

第二學年(必修科目) 英文學、英語學、國語及漢文學(撰擇科目は外國語を加へて四科目以上)

第三學年(必修科目) 英文學、言語學、英語學(撰擇科目は外國語を加へて四科目以上)

撰擇科目(各科共通)

第一學年—憲法、民法、刑法、刑事訴訟法、經濟學、外國法、法制史、社會學、政治學、外國政治書研究、統計學、經濟史、簿記、倫理學、心理學、文明史、哲學概論、哲學

演習、東洋哲學史、文學概論、英文學、英語學、國文學、獨語、佛語

第二學年 民法、商法、刑法、民事訴訟法、行政法、外國法、財政學、國際公法、社會政策、地方自治、政治史、比較憲法、教育學、西洋哲學史、哲學演習、東洋哲學史、宗教學、經濟學、美學、美術史、英文學、英語學、漢文學、獨語、佛語

第三學年—民法、商法、民事訴訟法、行政法、外國法、國際私法、法理學、破産法、經濟政策、外交史、政治學史、外國政治書研究、社會政策、西洋哲學史、東洋哲學史、佛教哲學、經濟學史、羅典語、教授法、言語學、英文學、英語學、獨語、佛語

學則一部改正

本學では新學年度を機とし學則の一部を改正したがその要領略左の如くである。因に專門部學則改正に關しては既に文部省より認可の指令あり、學部並に大學豫科に關する改正に關しても近く認可の指令ある筈である。

學部並に大學豫科學則改正

法文學部法律學科、經濟學部經濟學科に於ける行政法時間數増加

法文學部法律學科に於ける信託法講座の加設
經濟學部經濟學科に計理士法の適用を受くる爲め必要なる撰擇科目を加設
學部並に大學豫科共隨意科目を廢して撰擇科目に改む

休業日を短縮し春期四月一日—十日、夏期七月二十六日—九月十日に改正

試驗規則の改正

專門部學則改正

各科第二學年第三學年に獨語又は佛語を必須科目として加設

經濟學科に計理七法の適用を受くる爲め必要なる商業算術、簿記、會計學の諸科目を撰擇科目として加設
文學科を國漢文專攻科、英文學科の二科に分ち中等教員無試験檢定に便す
休業日改正、學部に於ける改正に準ず

圖書館竣工

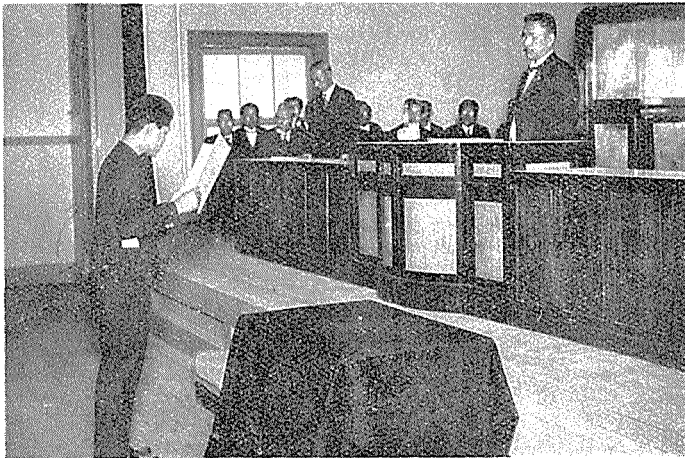
かねて千里山學舎本館東隣に建設中であつた本學圖書館は最近愈々竣工、外部の足場を取拂つてクリーム色の外壁鮮やかに聳え立つた。建物は鐵筋コンクリート三層地下層附、尙これに五層地下層附の書庫が附屬してゐる。坪數延約八百坪であつて、地下室は食堂、製本室、地階は事務室、館長室、研究室、二階は閱覽室、三階は研究室にそれら充當することになつてゐる(挿繪平面圖參照)、尙ほ什器その他内部の備付け完成次第開館の豫定である。

學長就任式並學部及び大學豫科入學式舉行

仁保新學長の就任式は本學年度學部及び大學豫科入學式を兼ねて、四月十八日午後一時から千里山學舎本館講堂に於て舉行せられた。定刻仁保學長、教職員、在學生、新入學生一同出席、學歌合唱裡に開式し、増山事務理事先づ立つて、別項の如き松本前學長の別辭を代讀し、更に仁保新學長を紹介した。仁保學長は約一時間に亘つて就任の挨拶(第二頁參照)を述べ、終つて福井大學豫科學生總代の新入學生歓迎の辭、堀内新入學生總代の答辭あり、更に荻原學部入學生總代、堀内大學豫科新入學生總代の宣誓文朗讀及び新入學生一

同の宣誓があつて閉式した。因に學部及び大學豫科新入學生の宣誓文は左の通りである。

學部新入學生宣誓文
宣 誓
關西大學學部ニ進ムニ當リ更ニ發奮遵守ノ念ヲ新ニ益研鑽修養ニ努メ以テ本學ノ期待ニ副ハンコトヲ誓フ 依テ爰ニ姓名ヲ自署ス



(新入學生の宣誓) 式入學年度學本

昭和三年四月十八日

大學豫科新入學生宣誓文

宣 誓
關西大學大學豫科ニ入ルニ當リ謹テ本學建學ノ趣旨ヲ体シ以テ學生ノ本分ヲ全ウセンコトヲ誓フ 依テ爰ニ姓名ヲ自署ス

昭和三年四月十八日

關西大學大學豫科第一學年

尚ほ仁保學長は閉會後直ちに福島學舎に向ひ第一講堂に於て午後五時から二回に分ち在學生及び新入學に對しそれぞれ、千里山學舎に於て爲したると略同様の就任の挨拶を述べた因に松本前學長の學生に對する別辭は次の通りである。

學生諸君に對する別辭

私が自ら掃らす關西大學學長の重任を汚すに至つたのは大正十四年三月中旬であつて、當時一つの條件として一身上の事情が或は在任を不適當とするに至ることがあり得べく其際退任することは豫め認めて頂きたいと申して置いたのである。然るに昨年九月に至つて辯護士事務所を東京に開設し専ら其事務に當ることとなつて以來相當多忙になつて到底學長たる責任を果すを得ないことを知つたのであるから、前述の解除條件が期せずして到達したものととして、年内辭意を漏して居つたのである。併し乍ら當時は適當の後任者を物色し得ない爲め延延になつて居つたのであるが今春に至り再三御懇願申上げた結果、幸に學徳兼備の仁保博士を迎へ得ることとなつて終に退任の希望を達し得たことは、學校の爲めにも又私一身の爲めにも欣悦に堪えない次第である。

勿論數年間驚鈍に鞭つて勤めた學長の地位を去ることは私情として忍び難い別離の感に打たれるのではあるが、眞に理想的の學長とも申すべき仁保博士が御熟考の上曲けて後任を引受けて下さつた以上は、學校基礎の安泰、將來の大發展は期して待つべく、學校の爲め慶

賀措く能はざると同時に重責を免るる満足の感に禁えないのである。所謂悲喜交至と思ふは只今の私の心情を道破した辭であると思ふ學長として學生諸君に別を告ぐるに當つて申述べたいことは毎年の卒業式、始業式其他の機會に折に觸れて御話した所と同趣旨であるから、極めて簡単に其要領のみを一言することにした。

(一)大學教育の第一の目的は人を造るに在る事に處するに當つて不正の判斷を先にし不利の打算を後にする人、志を大にし常に國家社會に對する奉仕貢獻を念とする人、此の如き所謂國士を以て自ら任ずる人を造ることが大學の責務であつて、國家社會は國士に依つて指導せらるることに因つてのみ其發展向上を期し得るのである。諸君希くは志を大にし自ら重んじ人格の養成を第一の任務として努められたい。

(二)大學に於ける専門學問の研究は能動的たるべく受動的たるべきものではない。即ち自ら爲すべきものであつて、他人に教授せらるべきものではない。學校の講義は諸君獨自の研究を輔導し援助するもの以上ではあり得ないと思ふ。諸君希くは講義を暗記し試験を通過するを以て能事とせず、必ずや獨自の思索と讀書とに依つて學問の研究に努められたい而して此際特に附言して置きたいことがある

即ち學問の獨立研究の自由は固より尊重せねばならぬことであるが、一知半解の學說を輕信したる余り實際運動に干與し、誤つて法網に觸れた悲むべき實例は近頃二三の大學に生じた所であつて、此種の輕舉妄動は學生として嚴に戒むべく、國法遵奉の精神は何處まで

も堅持せられたのである。

(三)人格を養成し學問を研究するも、之を實地に施す爲めには健全なる身体を基礎とせねばならぬことは言ふを待たない所である。學校に於て各種の武技又はスポーツ類の運動を奨励するは諸君の健在なる身体を養成するに於て大に意義あるものである。而して同時に之に依つてフエツリーの精神を養ひチーム・ワークの訓練を受け以て人格の養成の目的をも達し得るのである。只近時の運動界は動もすれば輕躁浮華に流るる弊がないと云へないのであるから、諸君は勉めて其弊を避けて運動の眞の効果を發揚するに努められたい。

以上申述べた所は極めて平凡のやうに見えるかも知れぬが之は實行することは必ずしも容易でないと思ふ。獎來の國家社會の運命は懸つて諸君の双肩に在るのであるから、何卒克己奮勵十二分の覺悟を以て心身の修養に努められんことを囑望に堪えないのである。茲に諸君の健康を祈り前途を祝福して別辭を終はらんと思ふ。

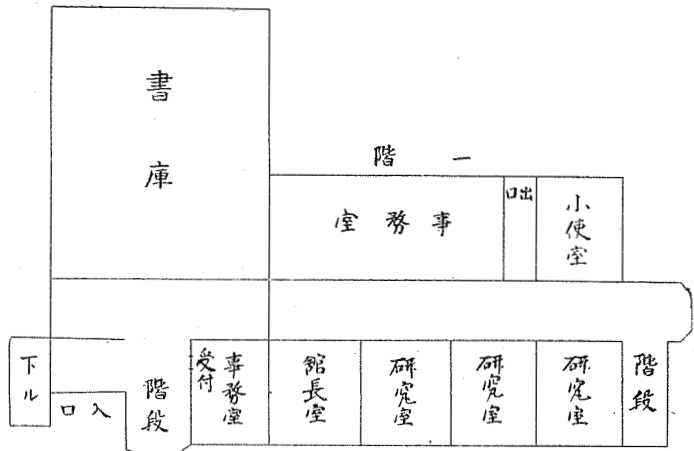
昭和三年四月

松本 丞 治

新學長歡迎協議會

四月十八日午後六時から堂ビル清交舎に於て仁保新學長歡迎の協議會が開かれた。仁保學長始め出席者一同食卓を共にし、デザート・コースに入るや喜多村専務理事は立つて仁保新學長を紹介し、これに對して仁保學長は新任の挨拶を陳ぶるところあり、一同乾盃して大學の前途を祝し八時半散會した。因に當日の出席者は左の通りであつた。
仁保龜松氏(主賓)、喜多村桂一郎氏、増山

忠次氏、白川朋吉氏、山口房五郎氏、垂水善太郎氏、木村清氏、板垣不二男氏、吉田音松氏、砂川雄峻氏、大鐘彦市氏、内藤正剛氏、吉崎龜之助氏、水谷揆一氏、澁川千之助氏、川崎齊一郎氏、武田貞之助氏、武



内省三氏、松山藤雄氏、(順序不同)

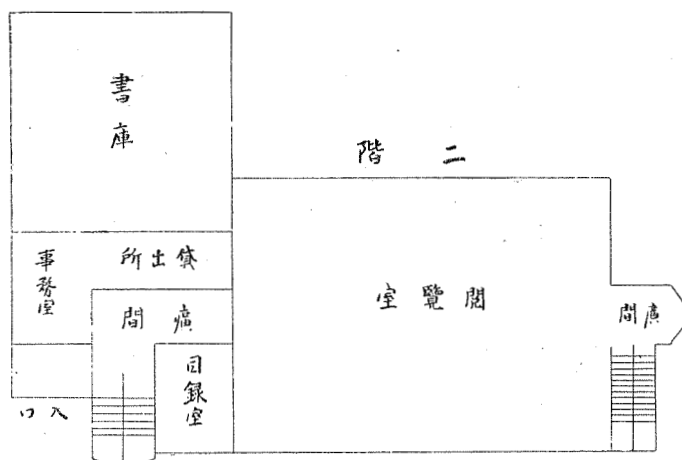
學生監囑任

新學年度より學生監の制度を設けることとなり、菱刈第四師團長の紹介に依つて豫備陸軍歩兵大佐矢島彪氏を學生監に囑任した。氏は士官學校卒業後永く軍務に服し會つて鯖江聯隊區司令官たりしことあり、大正十五年豫備役被仰付、今日に至つたのである。

追試験施行

學部並に大學豫科及び專門部學生中、病氣その他の理由に依り過般卒業せられた卒業、大學豫科修了及び進級試験に缺席或は缺科した者の爲め左の通り追試験を施行した。
大學豫科追試験
四月三十日より五月三日まで
專門部追試験
四月二十四日より同月二十六日まで
尚ほ學部追試験は六月施行の豫定である。

豫科追試験 階上及び二階下平面圖



專門部學年試驗成績優良者 若くは佳良者に賞牌授與

過般施行せられた本學專門部學年試驗の成績

優良又は佳良者に左の通り賞牌を授與した。

成績優良につき賞牌授與
法律學科第一學年 藤井梅太郎
成績佳良につき賞牌授與
法律學科第二學年 井上 玉光

經濟學科第二學年 及川 武夫
商業學科第二學年 永田 直治
文學科第二學年 安川安太郎
法律學科第一學年 井上龜太郎
經濟學科第一學年 寺井 一男
商業學科第一學年 戸坂 一良
文學科第一學年 中正 男

庭球コート新設

千里山學舍本館北手の低地(大學敷地内)に新しく庭球コートが開設せられ、一般學生の利用に供せられることになつた。因に右コート新設に要した費用は松本前學長が在任の記念として寄附せられたものである。(學生彙報参照)

教職員動靜

講師野村次夫氏 今回左記へ轉居せられた。
京都市下鴨中川原町三六
講師坂本憲三氏 今回左記へ轉居せられた。
南區順慶町通二丁目六〇
講師辰巳經世氏 今回左記へ轉居せられた。
豊能郡豊津村大字垂水六九八ノ一
山本順應氏母堂 本學書記山本順應氏母堂は去る四月十五日奇禍を蒙つて逝去せられた謹んで弔意を表す。

大學豫科入學試驗問題

前號所報本學年度大學豫科入學試驗問題の主なるものは左の通りである。

英語 (二時間)

英文和譯

(1) No man is really able to read a book who is not able to express an original opinion regarding the contents of a book.

(2) The physical geography of a country has much to do with molding the character and shaping the history of its people. Mountains foster the spirit of local patriotism; the sea awakens the spirit of adventure and develops commercial enterprise.

(3) It is all but dark. For a quarter of an hour I must have been writing by a glow of firelight reflected on to my desk. Snow is still falling. I see its ghostly glimmer against the vanishing sky.

和文英譯

關西大學は大阪市の郊外にあつて、學生は大抵電車で通學します。今日は日曜だし天気も好いから櫻の名所はどこでも大變な人出に違ひありません。

代 數 (二時間)

(1) 金100圓ヲ 甲乙丙丁戊5人ニ分配スルニ甲ノ所得ニ2圓ヲ加ヘタルモノト乙ノ所得ヨリ2圓ヲ減ジタルモノト丙ノ所得ヲ2倍シタルモノト丁ノ所得ヲ2倍シタルモノト戊ノ所得ヲ開平シタルモノトハ皆同額ナリト云フ甲乙丙丁戊ノ各所得高ヲ問フ

(2) 次ノ聯立方程式ヲ解ケ

x + y + z = 9
x^2 + y^2 + z^2 = 41
x^3 + y^3 + z^3 = 189

(3) 2x^2 + 8x - c = 0 (c > 0 正數)ノ根ノ中少ナクトモ一ガ正數ナル爲メニcニ與フ

(4) 次式ヲ簡單ニセヨ
sqrt(12 - sqrt(14)) / (sqrt(8) - sqrt(6)) - sqrt(10 + sqrt(84))

(5) 1 - m/n = n/x
ナルトキIx + my + nz = I^2 + m^2 + n^2

(6) 十ノ²ト²ノ²トノ比例中項ナル事ヲ證セヨ

商業算術 (二時間)

(1) 一石33圓60錢ニテ玄米30石ヲ仕入レコロシテ賣ルニ4分ノ損減ト2分ノ賣倒レトヲ見越シ尙1割2分ノ利益ヲ得ントセバ白米一升ノ小賣相場何程トナスベキカ

(2) 5月31日提出4月15日引受濟一覽後2ヶ月割額面426圓ノ手形ヲ4月29日割引日歩2錢1厘ニテ割引ナル時ハ手取金何程トナルカ

(3) 毎年6月末及ビ12月末ニ配當チナス株式ヲ3月末ニ46圓60錢ニテ買ハス年何程ノ利廻トナルカ但一株37圓50錢ノ挪込濟ニシテ會社ノ利益配當豫想ハ年8分ナリ

(4) 大阪A商ハ榮港B商ニ代價2170圓ノ商品ヲ賣渡シB商宛ニ荷爲替ヲ取組マントス 申立人手數料1%爲替相場478ナル時ハ手形額面ヲ何程トナスベキカ

日本作文 (二時間)

常識の修養に就て(文休隨意)
記念植樹寄附金決算報告

昨年六月本學教職員有志に依つて企劃せられた本學創立五周年記念植樹事業はその後寄附金の募集を締切り大半を終へたが目下の收支計算は次の如くである。

收 入 金

支 出 金
寄附金總額
一金八百拾圓也

一金二百六拾圓八拾錢 ヒマラヤシダ樹拾本代
一金五拾壹圓也 樟三本代
一金六拾五圓也 流芝代(五拾坪)
一金參拾圓也 大榕栢竹二株代
(以上茂野龜吉拂)

一金二百四拾圓也 ヒマラヤシダ樹八本代
一金參拾圓也 支柱材料其他入夫賃
一金六圓也 桐苗百本代
(以上 北口久吉拂)

一金貳拾圓參拾五錢 記念樹周圍木柵材料及入夫賃
田中支拂
金七百參圓拾五錢也

支合計 金七百參圓拾五錢也
差引殘金 金百拾六圓八拾五錢也
右殘金ハ第二期植樹代ニ繰越ス
昭和三年五月

記念植樹事業實行委員

附屬關西甲種商業學校彙報

職員異動 今回左の諸氏を本校教諭に囑任した
水垣幸一氏、大橋千太郎氏、菊岡一太郎氏
尙教諭松野嘉一郎氏はこの度都合に依り退職せられることゝなした。

野球部の活躍 本校野球部は新學年度に入りてより一層の活躍振りを示し、豊中中學を四對二中外商業を六對二、京阪電鐵を五對二、にてそれ〴〵打ち破つた。

春季修學旅行 本校春季修學旅行は五月初旬左の如く行はれた。

第五學年 引野、菊地兩教諭引率の下に東京日光方面へ
第四學年 垂水主事、神田、中村、土橋、三教諭引率の下に北陸方面へ

第三學年 長尾、古川、三島三教諭引率の下に宮津、橋立方面へ
第二學年 神原、道端、下島、水垣、四教諭引率の下に和歌山方面へ
第一學年 室石、柳、西田、石川四教諭引率の下に奈良方面へ

天長節拜賀式舉行 四月二十九日午前九時より本校講堂に於て天長節拜賀式を舉行職員生徒一同出席の上垂水主事より一場の訓話があつた

附屬第二商業學校彙報

學級担任決定 本學年度學級担任教諭を左の通り決定した。

Table with columns for year (第一學年 to 第三學年), group (A組, B組, C組), and teacher names (e.g., 敬義氏, 山崎, 霜村, etc.)

同 B組 今田 二夫 山本 豊一
同 C組 森川 弘 寺島 重二
學友會役員 本學年度學友役員左の諸教諭に決定した。

体育部 (部長) 松本教諭、(旅行部主任) 神保教諭、(相撲部主任) 岡田教諭、(陸上部主任) 引野教諭、(卓球部主任) 神代教諭、(野球部主任) 四辻教諭、(庭球部主任) 依田教諭、

學藝部 (部長兼辯論部主任) 森川教諭、(會誌部主任) 霜村教諭、(珠算部主任) 西田教諭

學友會生徒委員 本學年度學友會生徒委員左の如く決定した。

第三學年A組) 常藤俊雄、上田爲吉、安田美尙(第二學年B組) 國貞弘、武永武士、野上梶雄、(第二學年A組) 井村福夫、吉川省三、久保光造、(第二學年B組) 福田一重、山手實夫、小路佐六、(第二學年C組) 矢北史郎、中村常雄、瀧井茂兵衛

第一學年委員は追つて決定の筈

劍道教師招聘 この度劍道教師として小原茂樹氏を招聘した。

職員會議開議 四月二十八日午後三時半から專任教員會議を開き左の數項について協議した。

一、學例一部改正の件
一、教授表作成の件
一、追試験成績考査の件
天長節拜賀式舉行 四月二十九日午前九時半より講堂に於て天長節拜賀式を舉行し垂水主事一場の訓話をなした。

校友の面影

大阪府西淀川區長 佐奈正雄氏

明治三十七年關西法律學校出身

先づ氏の略歴を左に御紹介しやう。氏は明治十六年大阪に生れた。明治三十七年七月關西法律學校を卒業し翌三十八年九龍市に於ける文官普通試験に合格直ちに稅務監督局屬として同年六月頃まで九龍に留まつた。

それより大阪稅務監督局に轉じ徵稅部勤務、明治四十一年二月に至り大阪市北區役所に轉任、更に同四十二年に大阪市検査課に勤務を命ぜられた。大正元年五月に西區徵稅主任として稅務行政に携はり大正九年西區主事に任ぜられ、徵稅係長となり大正十二年同第二課長となつた。大正十四年四月市域擴張と共に東淀川區主事同出張所長に任じ、本年三月二十四日現在の西淀川區長に榮轉されたのである。

その最近の御感想を乞へば、
『久しく出張所に勤務してゐてこちらは就任早々で、別にこれと言つて申上げるほどの感想とてありませんが』と極めて謙讓に前置して『私は從來一般人の間に新市と舊市とは、差等のあると言ふことを觀念してゐる向もあるやうに聞くことがあるが私としては斯かる觀念を抱く人のあることは甚だ遺憾とする所であります、人事にまれ、行政にまれ、施設にまれ、その他總ての点に就いて舊市中執つてもつて



佐奈正雄氏

範となすに足るものがあれば、所謂新市と雖も毫もその間に徑程の無きまでに實質的の成績を擧げて見たい。これが就任に當つて最も痛切に私の感じたところであつて、斯くすることに依つて、假りに一般に舊市新市と差別をつけて考慮されてゐるやうな誤まつた觀念があつたとしても、それを自ら消滅せしめ得るやうな結果を招來することとなるであらうと考へます』と暗にその決意の存する所を語り、又、最も苦心を拂ひその努力を傾けてゐる

れて假りに一人の人が病氣で缺勤するやうなことがあつても、直ちにその部の仕事に支障を來すのみならず、全体にも大きい影響を與ふると言ふほごに全力的に働いて貰ふやうに何時も話してゐる次第である。つまり一人として無爲に過す人の無いやうに、總て練達堪能の士を集めて、全體としての財政状態がさんなであるかと言ふことを知悉して貰つて最後の成果を收めたいと考へてゐる。』
多年稅務行政の實際に當られた氏の言葉として、斯くも人事を重く見て市政の實地に臨んで行かゝることは推服の外はない。

筆者が役所に氏を訪ふて辭去するの間に體感した緊張し切つた各事務室の空氣は一訪問者たる身に取つても誠に快よいものであつた。

氏は樂しみとしては仕事以外になく唯、中年より永らく觀世流の謠曲を習ひ自ら娛しみとしてゐる由、舉措自ら溫雅、對者もその溫篤な態度に不知惹き入られて穩やかな話に聞き入る許りであつた。

氏は尙近時在學學生諸君の風儀に就いてその所感を漏らし、實實剛健の氣風を助長して新時代の雄者となるやう切に希望すると語られた。今御家庭には御母堂及び令聞との間に三人の子達があり極めて平和に過してゐる。擲筆するに當り氏を始め御一家の慶福を祈り尙、正に油の乗りきつた氏の手腕に層一層の牙えを見せ、邦家社會の爲今後一段の御盡瘁あらむことを切望する次第である。

校友彙報

校友會福岡支部春季例會

本學校校友會福岡支部にては春季例會を四月十七日午後六時より延命寺松屋花壇に於て開催した。先づ支部長池田重吉氏立つて挨拶をなし直ちに宴に移つた。庭前の櫻花夕陽に爛れ席上より遙かに海上を眺めつつ、風と共に舞ひ落つる花に興じ互に胸襟を開いて互に交歓した。美妓は酒間に斡旋し酔の廻るに従ひ各自執れも昔の學生時代の氣分に還り、無邪氣に歌ひ且つ踊りつつ十二分に歡を盡した。最後に母校の發展を祝し萬歳を三唱して散會した。時に十時(池田氏報)

校友動靜

清水政秀氏(昭三大法)本年三月十四日より岐阜市共同毛織株式會社へ羊毛研究の爲轉勤された。
岡山福四郎氏(明四三商)今回社命により丸石商會東京支店に轉任された。
中村武雄氏(昭三專法)去る四月六日兵庫縣武庫郡西郷町新在家久保田新太郎長女文子嬢と華燭の典を挙げられた。
鈴田貞之氏(昭二大經)去る二月一日下關重砲兵聯隊第五中隊に幹部候補生として入營。
西口喜一郎氏(昭三專法)過般大阪府屬に任じ知事官房勤務となつた。
和田忠義氏(昭三專經)今般本學大學部へ入學
森永清晃氏(大一一四專經)豫て岡山縣連島町立高等女學校校長奉職中の所今般病氣の爲退職

され靜養中の由。

五島重雄氏(大一一四專法)日本大學第一講座法文學部入學。

吉岡勇四郎氏(大七專法)今般勤務先を次の如く變更された。大阪鐵道局庶務課。

植田完治氏(大一一五專法)今回自宅を市内北區堂島一丁目五〇に辯護士事務所を西區土佐堀通二丁目に移轉された。

但馬直吉氏(推)今回同氏法律事務所を東區高麗橋通五丁目に移轉された。

森畦孝夫氏(昭三大法)今般神戸市旭シルク株式會社に勤務さるゝこととなつた。

宇仁季雄氏(昭三專商)今般朝鮮釜山驛前蔚山自動車組合釜山營業所内貸自動車部主任に就任された。

校友住所移動

大谷武治(大一一二商)北區芝田町一〇五

奥座慎重(前三八法)北區吉山町四三
清水政秀(昭三大法)岐阜市金寶町四丁目生田屋方

岡山福四郎(前四三商)東京府荏原郡大井町更塚一二六一ノ二

南光義治(大一一三法)住吉區天王寺町三三八三
中川賢一(大一一四專經)豊能郡豊中町大字櫻塚一六六一ノ二

中村豊高(大九九法)神戸市久保町九丁目一五九

酒井忠雄(大一一四專法)尼崎市大物村二九二辻治方

長尾辨三(大六六商)港區小林町五八新宮商行出張所内

芦田文一(昭二專經)西淀川區浦江町三三五

山本祥市(大一一五專商)山口縣福岡町
木下清一(昭二專商)此花區中江町一〇

瀧本 貢(大七法)西區土佐堀通二丁目三五

徳田 豊次(昭二專經)住吉區安立町一番地ノ一

竹内 虎治郎(前三九法)山口縣船木區裁判所
野田 靖正(昭三專法)北河内郡三郷村字高瀬二一七

正岡 榮治(昭二專經)此花區茶園町一〇〇地
森 孝夫(昭三大法)神戸市永澤町四ノ五四辨天境内田淵方

鶴飼 金次郎(大一一〇法)港區三先町三丁目九七
石橋 榮市(昭二專經)福岡市馬場町新町七一株式會社下枝商店

藤原 定雄(昭三專經)北區澤上江町二ノ六八石居喜作方

兒島 壯市(昭三專法)北區中野町三丁目九三狛勇三郎方

竹内 靜衛(前三三法)南支那在厦門日本領事館

龜川 四郎(大八專經)東成區生野國分町一〇七
宇仁 季雄(昭三專商)朝鮮釜山驛前蔚山自動車組合釜山營業所内

植田 俊治(昭二專商)西區阿波堀通四丁目株式會社鴻池銀行岡崎橋支店

日淺 嘉見(昭二專法)朝鮮京城府竹添町二ノ一〇三鈴木方

大森 隆三(昭三大法)280, W. Lorain St. Oberlin, Ohio, U. S. A.

橋 利雄(昭三專文)臺灣臺北市若竹町二ノ一

岡本 俊雄(大九專法)東成區大友町一四二

飯田 清藏(大一一二商)東區宮林町四番地ノ三
五島 重雄(大一一四專法)東京市外落合町下落合五四四今井新八方

松本 喜代治(昭二專文)神戸市平野町馬場町二一四古市政方

山本 三七(昭二專法)此花區春日出町一五一ノ二三

淺野 外雄(大一一五專經)兵庫縣西宮市染殿町三番地第一號

木津 勝(昭三專經)京都府愛宕修學院村一乘寺谷田久世光之進方

山口 常一(大一一四大經)兵庫縣武庫郡芦屋字大櫛八四七

西本 信三(昭三專經)北區堂島北町二〇合名會社藤田組内

寶田 茂頼(大一一五專經)三島郡吹田田中町二六八四

福永 泰章(昭二專法)兵庫縣西宮市西波止朝日軒内

内田 重成(前二三法)東京市牛込區柳町三八

校友改姓名

大一一五專法 細川 正敏 (新)
大一一三法 棗 耕三郎 棗 榮三

校友逝去

昭和三年三月二十一日 和藥榮三郎氏
大正十五年結核菌部菌業務科出身

昭和三年四月五日 金澤市水溜町一九番地 辯護士 平田 金次氏
明治三十五年脚西法律事務所出身

昭和三年四月十八日 和歌山市五番町二 辯護士 和田 右膳氏
大正七年法律學科出身

右計音に接し謹んで弔意を表す

學生彙報

千里山野球部報

對明治大學野球戰——去月八日午後二時四十分より、東京に遠征した我が野球部は神宮球場に於て對明治大學野球戰を舉行了。球審正田、壘審繩岡兩氏審判の下に本學の先攻にて開始、

第一回、本學一死後川村四球に出たが川村の中飛大飛球を楯背進しシングルに納め一壘に好投して川村を併殺、明大錢村二壘を抜く安打に出たが田部の一飛に併殺され櫻井中飛（兩軍〇）

第二回、本學本田右翼へ安打したが川西の投ゴロに封殺され小西の遊直に川西併殺さる、明大榎左翼越二壘打角田中堅安打に續き一壘二壘を占め絶好のチャンスを作りながら井川三振鷲尾投邪飛安田三ゴロにて終る（兩軍〇）

第三回、本學凡打、明大永澤四球錢村も四球田部の犠打に送られ櫻井の遊擧を抜く安打に二者生還し榎三壘強襲安打角田遊ゴロのハンブルに生きて一死滿壘となり井ノ川の左翼越二壘打に二者生還し捕逸した爲角田も生還した（本學側投手を森田に代へ本田一壘へ入る）鷲尾三ゴロ安田三飛（本學〇明五）

第四回、本學二死後坂井四球に出たのみ、明大二死後田部の遊擧安打櫻井の三壘を抜く安打があつたが物にならず（兩軍〇）

第五回、兩軍無爲、

第六回、本學三木四球森田右翼二壘打に續き

蔭山三振の後川村の右飛は犠牲となつて三木

還り坂井遊擧、明大錢村四球田部左飛の落球に生き二者重盗し櫻井又も四球無死滿壘となつたが榎捕邪飛、角田三ゴロに錢村本壘に死し井ノ川の遊ゴロに角田封殺（本學一明〇）

第七回、（投手中村となる）本學一死後川西一ゴロの失に生きたが後援なし。明大松木四球中村三壘を抜く安打永澤遊擧のハンブルに生きて無死滿壘となり錢村の左翼安打に松木を迎へ田部左中間に二壘打して中村永澤生還（投手再び本田となる）櫻井の中飛は犠牲となつて錢村生還（本學〇明四）

第八回、本學二死後蔭山左中間に二壘打を放つたが川村遊飛。明大松木左翼へ二壘打し中村の左翼二壘打に生還し、永澤左中間に三壘打を放つて中村を迎へ錢村四球田部の左翼安打の後逸に永澤も還り櫻井四球を選んで滿壘となり榎の四球に錢村を押し出し角田の中堅安打に田部も還り井ノ川右飛の後松木二壘一壘落球に榎角田も還り次打者凡退（本學〇明八）

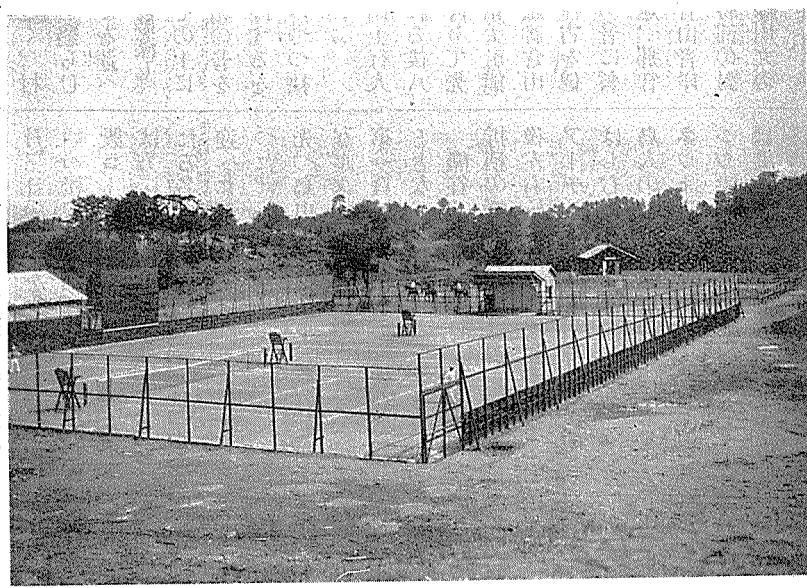
第九回、本學三者凡打し結局十七A對一で血涙を飲んだ。

對寶塚協會野球戰——去月十四日午後三時五十分より寶塚球場に於て對寶塚協會第一回野球戰を舉行、大毎社後援、審判柳田、小林兩氏、本學先攻、本學は今春高松商業の多胡、米子中學の出島を迎えての新陣容を持つて敵に對し遂に二對一にて大勝した。

對寶塚協會第二回戰——對寶塚協會第二回戰

對寶塚協會第二回戰——對寶塚協會第二回戰

對寶塚協會第二回戰——對寶塚協會第二回戰



トーコ球庭設新

を四月十五日午後寶塚球場に於て舉行、寶塚先攻にて開始、審判柳田、小林兩氏、午後四時半閉戦結局十二對三にて復讐された。

對寶塚協會決勝戰——對寶塚協會決勝戰を四月十九日午後三時四十分より寶塚球場に於て舉行、審判柳田、小林兩氏、寶塚先攻にて開

始、三對〇にて寶塚に勝を護つた。

對スタックトン野球戰——四月二十八日西下したスタックトン軍と甲子園に於て舉行、審判松本、鶴田兩氏、午後三時半開始、五對三にて惜しくも敗れた。

對スタックトン第二回野球戰——四月二十九日

對スタックトン第二回野球戰——四月二十九日

午後二時十分甲子園球場にて舉行、審判橋本、横澤、本學先攻にて開始、兩軍必死となつて戦ひ、遂に補回戦にまで入つたが、結局三對二で惜敗した。

千里山端艇部報
大阪學生漕艇聯盟大會——去月二十九日午前十四時四十分より櫻宮コースに於て舉行された大阪學生漕艇聯盟大會に於て本學は大阪高工との優勝戦に二艇身半の差で優勝した。航程二千米順航横風。

豫選〓八分一七秒（大阪高工）對日大專、八分三〇秒（本學）對大阪高工、商大
決勝戦〓八分四二秒本學、二、大阪高工。

千里山陸上部報
新學期を迎へた陸上部の近況は左の通りである。第四回萬國オリンピック大會はオランダのアムテルダムに於て舉行される事と決定し日本派遣選手選定の爲各地方にてその第一豫選が行はれた。我が陸上部選手は各地方に於て左の如き成績を舉げて傳統の名を恥かしめなかつた。

- 大阪第一豫選
- 走幅跳 一等 大島謙吉（六米九〇）
- 三段跳 一等 大島謙吉（一四米六五）
- 走高跳 二等 吉川平治（一米六八）
- 棒高跳 二等 西田利廣（三米三二）
- 棒高跳 三等 吉岡（三米二二）

- 四國豫選（推薦にて参加者全部入賞）
- 圓盤 吉川 親
- 鐵彈 吉川 親
- 棒高跳 松隈獅郎
- 棒高跳 竹内幸一郎

- 山陽豫選

圓盤 仰宇兵衛(三四米二九) 槍投 仰宇兵衛(推薦)

尚部員一同は本月二十五、六日の兩日に亘り東京に於て舉行される日本學生競技聯盟主催競技大會に参加する爲に日猛練習を續けてゐる傍ら六月九日大阪市立運動場に於て舉行する第五回法政大學對本學對抗競技大會への準備練習もおさおさ怠りなく努めてゐるとの由である。(丸谷君報)

全日本陸上並に國際大會近畿選會——大阪體育協會主催第十五回日本陸上競技選手權大會並に第九回國際オリンピック陸上競技派遣選手近畿豫選大會第二日は四月十五日午前九時半大阪市立運動場に於て舉行、本學陸上部選手は左記の如き成績を挙げた。

八百米 二等 矢柴 五百米 二等 岸 マラソン 一等 (日本新記録) 二時間三十五分三十五秒 津田

因に津田晴一郎君の記録は大正十三年四月金栗氏の日本記録二時間三十六分十秒を破つたもので同大會最大の收獲であつた。

千里山山岳部報

南紀旅行記——四月四日午後二時半一行は那智丸にて天保山を發し憧憬の國南紀に向ふ。空曇りて小雨をさへ催したれども、船の南下するに從ひて次第に快晴となる。十時田邊着ランチにて綱不知へ上陸、折から十四日の月山嶺にかかりて神祕なる光りもて未知の港を照し旅情漸やく迫る。更に一行は自動車に投じ、曲折多き月明の海岸を猛進して湯崎温泉有田屋に着く、時に十一時。當館に病友西尾

君在り、淋しき轉地療養を始めてより既に三月、相逢の情真に切なるものを覺ゆ。一同彼の隣室に泊る。

四月五日、松籟と濤聲に淺き夢を破られ、起き出でて欄に倚つて眺望を執る。旅館は岩壁にかゝり眺望絶佳時の過ぐるを覺えず。午前十時、西尾君の案内にて、千疊敷に赴く。村道の兩側は見渡す限りの麥圃、片雲の翳らひもなき碧空に雲雀の朗轉を聞きつつ歩を運べば陽氣袂に薫じ、實に南の國なる哉の感深し。千疊敷は坦坦たる芝生をなし、矮松その上に散生す。先端は斷崖絶壁、脚下に鞞鞞の音を聞き、怒濤の岩礁を衝きて飛沫天に沖するを見る。ここに西尾君に別れを惜しみつつかを別ち、午後十時牟婁丸にて勝浦に向ふ。

四月六日午前四時半、未明の月白く街上行人稀なる勝浦に上陸。暫らく時を消したる後八時半新宮行きの汽車に乗る。新宮に降りて先づ秦除福の碑を尋ね老樹蒼鬱たる官幣大社熊野神社、速玉神社、神武天皇の御舊蹟神倉山等に參る。田鶴城址に落花を浴びて往古を偲び、熊野川邊に佇んでは和やかな槽の音に暫し時の移るをも覺へず。勝浦への歸途、那智に下車、那智瀧、西國第一番札所那智山青岸渡寺等に詣でた。時間尙餘りあれば勝浦の對岸浦島温泉に赴き一浴し午前零時半緑川丸の客となり勝浦を發す。

四月七日、難所熊野灘を安眠の中に過ぎて本洲最南端潮岬に近づく頃漸やく目覺め船窓より岩上高き所に皎皎たる燈台の光りを見る。午後二時半新和歌浦に着し、西國第二番札所紀三井寺に詣で、更に和歌山に出づ。七時、南海電車にて恙なく歸阪す。参加者一日下五

千里山庭球部報

一、池永敏一、木村仁吉他數名(木村君報) 庭球コート開き舉行——豫てより關西庭球界の元老鳥山隆夫氏に設計を委嘱して工事中であつた本學庭球コートが愈々竣成したので去る四月三日の佳辰を卜して、熊谷、原田の兩氏を始め松津、佐藤、秋元諸氏の斯界の權威を新設コートに迎へてコート開きを舉行した。時は方に中春行樂の好季、人はこれ斯界に名だたる名人揃ひ、かゝる意義あるコート開きを迎へた部員の喜びは筆舌に盡し難いものであつた。

先づ鳥山氏主審の下に熊谷、秋元兩氏のシナグルスに依つて開始され、本年度我が部史の第一頁はこの兩名士に依つて繰り開かれることとなつた。

熊谷6——4 11——9 秋元 折柄の祭日に觀衆は四圍のベンチを埋め、前後左右に、深く淺く絹糸の尾を引いて飛ぶヴアーデンホワイトの球は見るものをして唯酔はしむるのみであつた。鳥人の如き秋元氏の其のシャープアングルのネットブレイ、熊谷氏の巨砲の如きアメリカンツ井ストサーヴイスにグラランドストロークは共に學ぶべき多くのものを我等に示した。終始接戦續きで秋元氏の善攻好防も遂に熊谷氏の堅陣を破り得ずして終り、次で松浦、佐藤兩氏のシナグルスが先輩福田氏主審の下に行はれた。

松浦4——4 佐藤 圓熟の域に達した二氏のストロークを物語るかのやうなラリーが續けられつつ戦正に酣な

らんとする時、遂に細雨を催はし爲に續行不能となり、二氏の眞技を見るに到らずして中止のやむなきに到つた。斯くて一同はクラブ・ハウスに於て、スポーツによつて結ばれた友情を温ため、來學選手一同に粗餐を呈した。豫定のスケジュールを完行出来なかつたのは誠に残念であつたが部長森下講師始め部員一同は、ホームコートの新設と共に層一層將來發展の希望に勇躍を禁じ得なかつた。(中村君報)

千里山馬術部報

對慶應大學第三回對抗馬術試合——去月一日午前九時より大阪愛馬會馬場に於て本學對慶應大學第三回對抗馬術試合大會を催ほした。此日兩軍共一勝一敗の後を受けて極度に緊張し美事な戦ひ振りを示した。本學岡島主將以來秘術を盡して闘つたが、左の如き戦績で惜しくも勝を讓つた。

- 慶大——障害總點 八六四點、馬場馬術總點 六四七點七五、總得點、一五五、一點七五
- 本學——障害總點 八二九點、馬場馬術總點 五五五點、總得點、一三八四點

校友各位に告ぐ

從來校友各位より本學並に學報局宛に差出さるる通信中、卒業年度、卒業學部、卒業學科等の記載なきもの多く、取扱に困難を感じて居る向も多かりましたが、今後は必ず署名と同時に右諸項御記入のほど御依頼申上ます。尚ほ校友名簿作成上の必要もあり、今後は、校友住所移動、動靜、改姓名その他に就いて續續御通信に接し度く希望する次第であります。

懸賞論文

註文製造主義の經濟循環期に及ぼす影響

經濟學部經濟學科第二學年

平井美水

序

資本家的生産は好景氣と不景氣との循環を通じて進行して居る。好景氣の頂上に於て或る一生産部門に過剰生産が現はれ、商品價格の暴落せんか、茲に此の過剰生産と價格下落とは他の生産部門にも及んで普遍化し、經濟恐慌となり生産は一般的に制限される。而して以後、不景氣時代が多少の間續く。然し次第に景氣も立直り生産は擴大され、商品價格の騰貴し來りて、終に亦頂上期に達して新らしき轉回に入り恐慌現はれ不景氣時代が來る。何故資本家的生産は斯くの如く好景氣不景氣の周期的交替の過程を辿るのであらうか。

生産過剰説に依れば

「近代機械工業發達の結果、生産能力は増進し、一般の生産力が消費力を凌駕するに至る爲め、一時市場に在荷過多の現象を生じ、物品の價格は下落して企業家は其の工場を閉鎖し雇人を減首するが、此の結果は却つて購買力の減退からして消費力の減退を來すので、生産高を随分減少して消費高の減退の方一層甚しく、爲めに益生産過剰の現象を見、財界を混亂に陥れるのである」と。

私は此の説を概して妥當なりと思ふが、主觀的にモット企業家の心理的過經及感情に立入つて、企業家を動かす動機並びに現代の競争的自的的活動の是認せられる資本主義經濟組織の下に企業家の

陥る錯覺に就いて考究し様と思ふ。

二

企業家の活動を促し又は思惑を抑制する理由は多あるが、企業家の企業を経営する根本動機は利潤を得ることである。利潤とは貨物又は勤勞を或る價格にて獲得又は生産し、之をより高價に賣却するに依りて生じ又は生じ得る通貨の増加分である。利潤は賣却と密接な關係があるから、賣却價格が財の獲得、賣出、引渡、並に代金の受取に要した出費の總額を償ふて、尙餘りがあるものごすれば、賣上高が多ければ多い程利潤は大になる譯である。大量生産は假令其の生産原價を引下げても、若し生産高の相等の分量が有利な價格で賣れなければ、利潤を擧げ得るものでない。故に生産の割合は需要の割合に合致するものである。

各種貨物の供給即ち生産は之を天然の水源地から流れ出て而して生産及分配過程の運河を通り、最後に消費者の手に歸する所の河に譬へるならば、其の最後の消費者が河口から貨物を抜取る割合が即ち其の河に對する結局の需要である。然し河其れ自体は實に中間的需要を成すもので、運河に沿うて工場より工場へ流れ行くに當つて一工場より發せられる原料品の註文は、此の工場よりも河上にある諸工場の生産品に對する需要を形成する。換言すれば註文といふ形式で現はれた需要は河口から水源地へ遡る所の衝動であり、而して其の結果は水源より河口へ生産及分配の運河を通じて流れる貨物の流れとなつて現はれ、又は現はれんとするものである。河上に傳達される所の索引的衝動は、河口から貨物を抜取る所の最後の需要に由來するものである。

三

凡そ農業礦山業漁業は之を措きて、生産の大部分は其の受けた註文を満たす爲めに營まれてゐる。又小賣商人は、其の顧客の註文を満たすため、商

品を仕入れて置き其の賣行きを在庫品の割合を細心に注意し、各種商品が顧客に依つて買取られる割合に應じて再註文の適否及分量を決せねばならぬ。即ち仕入品選定上、出来るだけ口銭が得られ

而も其の品物が直ぐ賣れて早く資金が廻轉し、十分利潤の得られる様な商品を機敏に選擇しなければならぬ。其口銭を取つて早く資金を廻轉する事が小賣商の眼目である。賣行の悪いものは再註文を爲さず、假令其く捌ける商品ごとも其の賣行きに細心の注意を以て再註文の分量度數を調節し若し賣行が落ち始めれば其の再註文の分量度數共に之を減らして行かねばならぬ。又一時は利益が得られても其後に賣行きが止まり、餘餘なく其の捌けぬ商品を損をして賣り、先きの利益が後の損失の爲めに全く消滅してしまふ場合もある事を知らねばならぬ。

斯く小賣商のなす註文は需要の割合に合致して居る。卸賣商の場合も同様である。尤も製造家にあつては以前に製造した製品を賣出す者もあるが、大抵の製造家は註文製造主義に依つてゐる。即ち見込製造主義を探るも安全であることせられてゐる場合でも、莫大な經費倒れを避くるが爲めに見込製造主義では投下資金の回收が遅い爲めに、尙且つ註文製造主義に基いて生産せんとするのである。多くの商品に就いて見るも其の意匠は多種多様で流行及技術的發明の變遷することが迅速であるから安全な經營法は先づ註文を受取り然る後に製作する事である。(即ち註文製造主義である。)

四

註文製造主義と經濟循環期とは如何なる關係があるのだらうか。私は不景氣、好景氣、恐慌の順序に従つて考察して見たい。扱て不景氣の頂上に於ては消費者の小賣商品を需要する割合は最少限である。多數の労働者は或は賃銀の下落に依り或は失業又は操短に基いて其の所得を減じてゐるから需要の割合も實際減少すべき筈である。蓋し労働

者には購買力がないからである。小賣商に對する消費者の需要が減退して居る爲め製造家に對する小賣商の需要も亦最少限まで減退するのである。その結果一般に職工は出来るだけ

淘汰され且恐らく操業の短縮も行はれて生産力が最少限度となり又其の生産に要する原料品に對する註文高も最少限になるのである。加之製造家の手許にある原料品も半製品も又完成品も皆其の分量が最少限になるであらう。斯くの如く生産及分配の河は減水して天然の水源地より最後の分配河口に至る迄運河の至る處最低水位になつてゐる。斯ふなれば小賣商は十分に商品の供給が得られない譯である。反之恐らく消費者の需要は現實に小賣商が其の註文を控へた程に減じて居ないに違ひない。然らば其の結果如何と云ふに小賣商は企業家に對する需要の割合を増加して消費者側の需要に應じて居るのであらう。然し企業家は直ちに之に添ひ得るであらうか。只企業家が見込製造を行つた程度で之に應じ得る丈であつて、相等長い間は小賣商が製造家に向つて、其の製品を渴望する事が急にして、其の仕上商品が續いて製作補充されるも到底應じ切れぬであらう。而して其の生産規模を復舊して元通りの人員となし、元通りの能率を上げる迄には多くの時日を要するであらう、蓋し元の職工は大抵何處かへ分散して了つて居り従つて工場能率を高めるがためには新規に職工を養成してかからねばならぬ。企業家は假令職工を得られても實際は長い月日の間その生産を増加する事が出来ない理由がある。即ち企業家の仕入れた原料品は使ひ果されて居り、其上前述の如く天然の水源地より運河一帯に亘つて原料品の河は淺瀬になつて居るからである。右の如きわけで生産が天然の水源に於て十分殖えて來て、此の殖えた水嵩が繼次的に生産の運河全体に亘つて之を覆ひ來る迄は生産の割合が小賣商及消費者の需要を充分に満たす事が出来ないのである。

此の狀勢の結果は如何であるか云ふに小賣商は其の供給源に於て商品の拂底せるを認め、製造家は小賣商に對し全部の註文に應じ切れぬといふ。之は原料品の拂底があつて製造家は全力を擧げて生産せんと欲するも能はざるからで、次ぎの季節には充分に間に合せ度いものと希望してゐる。其の理由は其時までには確かに此の事情が救済されて居るに信ずるからであらう。然し小賣商は註文した丈の品物が渡らず、従つて何割かの利益がフイになる譯で註文する。然し此の季節中は他の供給源から供給を仰がんごしても同様不可能である次ぎの季節には例へば九十の品物が欲しければ百註文する。之は荷渡の場合に自分の分前九十を得る事を確かにする爲めである。然し今度も豫期通りの商品を供給される事が困難であるといふ恐れがあれば、彼等は其の分前を眞に欲する百パーセントになさうとして、其の欲する所以上に註文高を増し、尙之を二重に確かにする爲め、各商人は多數の供給源に對して同一註文を掛ける事になる茲に於て製造家に對する偽りの需要が醸成され、茲に現代の競争的利己的活動制度の大欠陥が存する。小賣商人自身は其の供給の拂底に關し非常に誤解してゐる様である。蓋し彼等は一度仕入れ損ふ場合には他の多くの品目の仕入に就いても疑念を起し、各種の仕入に強氣を取るからである。そこで彼等は同一の註文を多くの供給源に向けてなし、殊更に其の各供給源に對する註文の中に自分が得られると思ふ分量よりも遙かに多量を含める斯くて此の需要は著しく誇大され、製造家には之が皆本當のものに見えるのである。

製造家の方では、各々生産割合を増加して斯る有利な註文に應じ様とし、順次に註文を其の供給源へ向けて行く。此の場合にも得られると思ふ分量よりも遙かに大まかな註文が行はれるのである。殊に多數の工業にあつては、新らしき製造家が簇生して儲かりさうに見える企業を起し、其の目標

しい利潤を獲得しやうとするに至る。故に彼等は同業者全体を更に弱らすものであつて、原料品の供給源に對し、註文を増大し、從來からの製造家に對する競争者となるのである。

此の偽りの需要は生産の運河に沿つて一段一段と溯つて行き、而かも其の進み行くに従つて漸次誇大される傾きがある。故に天然の水源地たる終局の供給源に對する生産者の表面的需要は、消費者の眞の需要を満たすに必要なるよりも遙かに多分になつて来る、のみならず新規な生産を容易にする機能が運河一帯に表はれ之が工業に對し著しく誇大された需要を驕りふらして行くのである。特に鐵鋼業に於て此の傾向が著しい。次ぎに此の狀勢の當然の成行を觀察しやう。生産の流は擴大される計りでなく寧ろ過大に擴張され終局の供給源が殆んど凡ての註文を満し得る時期に進んで来る。顧客は自分の註文が即座に且十分に満されるので一驚する。彼等は十分あり餘る原料品の供給を受け最早や拂底處ではなく、前に過分に註文して居る爲め、餘分になつて来る。そこで彼等は註文する割合を少し減らす事になり、又終局の供給源も景氣が餘り活潑でない事を認めて来る。生産過程の第二段に於ける生産者も亦其の受取つた註文を十分且即座に満して其の顧客を前者同様に一驚せしめる。其の結果生産過程に於ける第二段に對する註文は少しく減じ、追つて斯くの如くして小賣商に及ぶ。生産の河は増水して居て其の水量は註文に表はれた表面的需要を満たすに最早決して不十分でない。實際に生産高は眞の需要を超過し従つて生産力は其後の眞の註文に表はれた需要を超過する。小賣商は商品が賣れるよりも供せられる方が速かに仕入過剩に氣が着いて来る。そこで彼等は供給源への註文を控え、過剰仕入品を賣捌いて註文高と賣行とを平衡させ様とする。此時は即ち多數小賣商が其の供給源に對して註文

五

を取消す場合である。

一方消費者の需要は暫時の間、増加するものである。其の譯は操短が廢せられて無意識的に失業數が減じ彼等は前より大なる購買力を持つ事になり少々物價は高くとも、よく其の需要を支へ得るからである。然し表面的な供給拂底で、物價は消費界一般の質銀が騰貴する以上に速かに騰貴して居り、小賣商製造家其他の生産者は此の供給拂底の利益即ち物價を上騰せしむる註文幅帳の利益を取めて居るから、之が爲め、全体を擧げて其の生産力の増大を量り生産者は雇人の數を殖さうとして烈しい争奪戦を行ひ、質銀を騰貴せしむるに至るのである。斯く質銀は一人當りの生産高が従前よりも増加せず、寧ろ低減し乍ら、騰貴して了つたので必然的に物價も騰貴し、而かも質銀の騰貴率よりも遙かに上騰したのである。故に一般消費者は貨幣所得の増加したに拘らず、絶えず生活難を感じ、一步進んで各人は其の買求むる商品の高價なるを憤慨するに至るであらう。此時人々の意識は其の需要を伸縮し得る商品の買入を控へる様になる。例へば服は以前よりも永く着用し、靴も底を附替へて長く穿く様になり、斯くて生活難に對抗する爲め消費者は需要を弱めるに至るであらう

六

以上の如くにして多數の工業に於ては、小賣商は其の註文品が時を待たずに引渡され、而かも需要は減退するといつた二個の趨勢の間に板挟みとなり、其の結果前の如く彼等は其の供給源に對する註文を控へ又は取消すのである。斯様な註文控と註文取消とは製造家を脅威するもので製造家の膨脹した生産の大部分は銀行からの借入金に依つて金融されてゐる。そこで顧客が其の註文した商品を受取らぬ事になれば、製造家は其の債務を履行する能力を脅威されて返済する事能はず従つて信用取引は行はれなくなり、危機茲に至る。此の場合の支配感情が警戒である。更に又製造家も其の供給源に對する註文を減少する。是れ需要が減少して来るごとく財政的資源を保持せんと欲するためであるが、又註文の夥しき取消無きを保し難いからである。斯る恐慌心と需要減退の感情は生産の運河に沿つて次第に河上へ押し移され、其の溯るごとく最初の商品過多の影響を増大して行く。即ち不景氣が續いて起るのである此の註文控と共に生産過程の各階段に於ける生産が縮小される事は云ふまでもない。即ち生産者は直ちに能率低き雇人を解雇する。其の結果は消費者の多數に注げる購買力の流れを減じ従つて前より一層消費者の需要を弱めるに至る。之が亦直ぐ反響して生産者に對する註文の上之以上の減少を齎す事になる。結局は雇人を淘汰しても、尙企業家は操短せざるを得ない事になるであらう。さうなれば尙此上労働者社會に注ぎ込む購買力の流を減ずる事になり、雇人の解雇は不景氣を強めるものである。全体から見て雇主が雇人を解雇するのは亦自らの生産物に對する需要をも絶つ結果になるのである。

七

以上の説明が大体正しいものごすれば、經濟循環期の根本原理は左の三つであるご云ひ得る。
(1)天然の水源地より最後の消費者に至る全生産過程は時間的に長いものであり、又生産組織上職工を選擧し訓練するには長い時日を要するため需要の割合以下に低下して居る生産割合を速かに増大して需要の割合に等しくする事は不可能で其の等しくなる迄には、多數の日月を要する(2)顧客が註文を餘分に向けるが爲め、眞の需要程度如何に關し、各方面共皆錯覺してゐる。
(3)同一需要が現代の自由競争制の下にあつては、同種企業に於ける各工業家に註文され、斯くし

て數回繰返し計上せられるが爲め、右の錯覺は愈強められる。

凡そ此の三者は共に働きて景氣の大煽りに乗じ需要の測定を非常に誇大ならしめ、其の結果は必然的に恐慌が襲來し、恐慌と不景氣の間の需要の測定は非常に控目にせられる事となるのである。而して順次に此の恐慌と不景氣に續いて必然的に次ぎの景氣の大煽りが来る。景氣の大煽りの終る頃生活難に對抗して其の需要を控える所の消費者の心理なるものは、生産過剰の影響を強め、而して實質上恐慌に急轉直下せしむるのである。此の週期的運動は一度發するや、廻り廻つて再び元に戻らんとし、従つて必然的に且永遠的に循環するものである。

私有財産制度の社會

政策的の一考察

専門部文學科第三學年

藤井 專藏

私有財産と其消費權が全く個人の手に獨占せられる所の財である。之を經濟學的に云ふならば財の消費が其所有者である個人の自由意志に依つて決定される所の經濟對象に外ならない。然して、「財」なる概念の中にわ生物と無生物と、換言すれば生命と財産とを含んでいる。

財が生産され、交換又分配され、然して消費される事わ經濟學的に正しい。だが經濟學に於てわ其經濟現象と社會との間に起る所の現象に關してわ何等説く所がない。

經濟現象わ人間の慾望を除いてわ起り得ない。而して、其人間——個人の慾望と社會の慾望との間に何等かの現象の起る事を肯定するならば、個人又わ一部社會の自由なる經濟現象が、社會の慾望——社會それ自身わ存在し進展せんとする——との間に異りたる價值批判を有つてせんか、そこにわ當然經濟現象に對する價值批判が存在せねばならぬ。其經濟現象に對する價值批判こそ——一般にわ社會現象に對する價值批判——社會政策的の考察である。勿論社會政策が經濟現象に對するのわ其一部であつて、經濟現象を價值批判することから社會政策の總てでわない。

従つて私がこゝに述べんとするものわ、其經濟現象——社會と云う立場から見れば社會現象——である所の私有財産なるものに理論的考察を與へんとするものである。

二

人類が存在し、人類が進展する爲にわ、必然的に財を要求する。而して、財なるものわ其消費が人類に價值を與うるものの中、人類の意識に依つて價值づけられたものであるからして、財にわ必ず人類の意識されたる價值づけがなければならぬとして、此財に對する人類の意識的價值づけが勞働である。勿論其命題の中にわ筋肉のみならず精神的の所謂作動も含まれては居る事わ言までもない。換言すれば財の構成要素として勞働が必然的に含まれること云ふ事に外ならない。そして或財に對して、其財の有つ勞働が個人又わ社會に屬するかに依つて、其財が社會の所有であるか個人の所有であるかを決定される。何となれば勞働わ個人に依つてなされるか社會に依つてなされるかのどちらかであらねばならぬからである。

それが所有の發生である。前にも言つた通り、財の存在わ價值批判なくして有り得ない。財の所有わ其財の分配され消費される時の價值批判が人類の存在を可能ならしめ又は人類の進展を肯定するものでなければ爲され得ない。従つて、人類の存在及進展を許さざる所のものに對して財の所有わ有り得ない。然るに、人類の多様な個人及び一部の所有が他の一部及び個人が存在及進展を許さざる又わ許さざる觀念を構

成する事がしばしばである。

我わ此人類の存在及進展を認めざる所の「所有」が如何なるものであるかを、如何なる所有の形式が人類の存在及進展を認めざるものであるか云う反面から考察して見よう。

所有を大別して、共有と私有との二形式に分ける。共有わ今こゝで述べる事をひかえて、私有の財を研究することにした。

三

私有財産を批判する前に、其歴史的起源を求めて見よう。

現代に於ける一部の經濟學者及び社會思想家の間に於て、何等私有財産の形式を具えざる財産制度の存在を唯一の理由として、人類社會に於ける共有財産制度が人類の原始時代に於て既に發生したものであると説べ、且財産所有の歴史に於て、共有私有の形式を取つて居る。

我が認め得る私有財産制度の歴史わ新しい。そして我わ私有財産制度以前の人類社會に於て異りたる財産制度の存在を肯定する。

然し乍ら、私有財産制度でないこと云う事を以て直ちに共有財産制度——共產制度——であつたと斷定する事わ許されぬ。何となれば所有わ觀念であり、觀念其物が制度であること云い得ない。従つて此場合共有觀念なくして共有制度わ有り得ない。然らば原始時代——私有觀念以前——に共有觀念があつたかどうか。

私わこゝに一つの具体的な例をあげて見よう。原始時代に於て、武器わ個人の自衛上必要なものであつた。然るに其時代にわ、武器として何等特殊の財を有つて居らず、必要に應じて木、石、骨又わ自己の肉體が直ちに武器として使用されるのであつた。従つてそれ以前武器としての觀念もここに所有されてわなかつた所の、然し武器として使用された其財わ、武器として必要が去つた後武

器以外の觀念もここに所有の歴史をくり返したに違ひない。

此場合、私有財産としての武器の以前に、共有財産の武器としての歴史があつたことわ思われぬ。それわ所有の無き歴史でなければならぬ。

私わ三度價值なき所有わ存在しないこと云う。即ち武器として價值のない、そして武器として何等觀念を有たなかつた使用以前の武器に對して、武器としての觀念もここに所有されなかつた事を以てそれわ武器としての所有の觀念もここにあつた事を認めなければならぬ。即ち、私有財産としての武器の以前にわ、武器として無所有の歴史が續けられたのである。更に其一度使用されたる武器を永遠に武器としての觀念のもとに私有を續けて行けば私有財産の歴史があり、文明社會に於て、武器以外に個人を保存——個人の存在を認める所の手段が發見されるに及んで、武器わ私有の歴史から共有の歴史に入ることを考へる。共に、財として常に所有の進化法則わ、無所有と私有と共有の歴史をたどるのである事を理論づけける。

以上の例に於て明なる如く、私有以前に共有の觀念なく従つて共有制度の存在しなかつた事を立證する多くの理論的根據を我わの現存社會の財に於て發見する事が出来る。

従つて、我わの觀念世界わ私有と共有——所有の觀念以外に大きな無所有の範圍がある事を知れば私有財産制度以前の社會に於て共有財産制度の存在を否定すること共に、私有財産制度の以前に社會にわ無所有財産制度の存在を肯定する事が出来るのである。

四

次に、私有財産それ自身の歴史に如何であるか云へば、最初の私有財産わ自己の生命である。個人が自己を認識——自覺することから其最初であつて、次にわ、自分の生活に最も關係の深いものに

と移つて行く。

或人わ食物、或人わ地穴の如き住所、或人わ衣服である云々。之を決して普遍的の法則を以て規範する事出来ない。氣候、地勢等の地理的状況の變化に依つてそれらの總てが同時に、所を異にして特殊の歴史を作つたかも知れないが、要するに生活必需品からして始つた事は事實である。

地おも私有財産として受入れようになり、ここに初めて、個人の慾望を社會的に承認する所の私有財産制度が完成されたのである。右の事實を分り易く表にして見る。



五

財には生産、分配、消費の三形式の變化がある私有財産の生産、分配、消費に對して社會政策如何なる解決を興えているか。

財の生産に於て、其他の生産が人類の生存及生長を妨害するものであつて其生産の質又は量に於て制限を加えられるものに、鹽・煙草・阿片・薬用植物・アルコール飲料・銃器及び過剰人口等の例をあげる事が出来る。

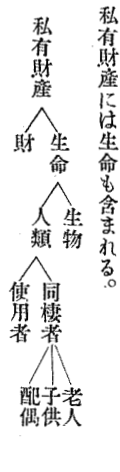
分配を嚴密に定義すれば交換と純粹分配となる交換とわ價値の同じ財と所有權の交換をする事であり、純粹分配とわ分配の一方が他の個人の私有物より大であるか小であるかを云う。而して後者を一般に分配と云つて、被分配者が其財の消費に依つてより以上の經濟價値を有つ所の財を生産する能力を有つか否かに依つて決定され、最も生産能力の大なるものに與えられねばならない。

消費に關しても常に其消費に依つて人類社會の影響を對象として考察される。

のに依つて規範されねばならない。

換言すれば、私有財産に二種類がある。そして其一わ生存に必要であり、他の一わ生長に必要な財である。先ず社會わ個人の生存を許す範圍内に於て生存に必要な財の私有を許さねばならないと共に、個人の生長に必要な財わ其個人の生産能力に依つて私有財産の量又質を決定しなければならぬ。勿論財には有限なるものが多い、従つて個人の生長に必要な量を其個人の生産能力を完全に満たすに足る丈私有せしめる場合、他の個人の生存を防ぐ事あれば、それわ當然生存の方々に於て其財を使用せなければならぬ。何ごなれば生長を除いて生存わ有り得るが、生存を除いて生長わ有り得ないからである。

六



生命としての人類が私有財産と稱せられるものの中に、配偶者、生産能力なき老人及び子供、用人等である。私が如何なる意味に於て人類も私有財産の中に含めたか云えば、生活が人類の根本的存在理由である。従つて生活能力なき人類を他の生活能力の多い所人類に於て其經濟的支配を受けなければならぬ。即ち生活能力なき人類が他の人類の經濟的支配のもとにあつて、其生存及生長に關する一切の財を得る事わそれ自身の存在價値に於て生活能力ある人類と區別さるべき必要上からであつて、決して財と同一視するのではない事わ次に生命の私有財産としての人類が、財と異りたる社會政策的見解を受ける事に依つて明かであり、そしてかく學的に便宜區分する事が必ずしも人類の冒瀆でない事がわかる。

人類を財と同様に經濟現象の中に置く時、社會政策わ之を如何に規範するか云えば、人類の生産、

分配、消費、換言すれば、生命の私有財産として人類が經濟現象の中に有つて、財と如何なる差異を以て使用されるか云えば、其一般的法則わ財の場合と同様であるけれど、唯一つ生命其自體の意志表示なくして經濟原則を應用されないと云う事である。

人類にわ意志がある。人類の意志わ決して經濟現象を作るためにのみ有つものでわない。社會の存在及發展の爲めに多くの責任があり、各人の能力に應じて其手段を決定する所の自由の意志がある従つて彼等が經濟現象の對稱となることも亦意志の自由の依らなければならぬとすれば、私有財産としての人類わ意志表示なくして之を經濟的對稱とする事を許さない。

七

以上に於て、社會政策が私有財産に對して如何に解釋しているか云う事を述べた。是に概括するならば、個人が其私有財産に對して有つ所の消費權が獨占的である事わ決して絶体的所有を意味しておらない、それは相對的に於てのみ使用權が認められるのみである云う事わ財及生命いづれの場合に於ても明かである。

即ち、社會政策の一表現形式である法律に於ても、私有財産制度を認める時、其絶體權を意味せずして只專有權に於てのみ之を許される事わ、世界各國の法律に於て明かでないか。此小なき私有財産制度の論文を通じて、社會政策が如何なるものであるかを知り得たならば、筆者の學的真心わ満足せられるであらう。

(二五八七・九・二二)

千里山歌壇 編輯局選

△街上寂漠 鈴木武夫

物なべて目に冷やかに映つる日の街こそ寂しくあ

りけり

△ 遠方に来てある故か灯の頃ともなれば我が家なつかし

△ いらだちて見上ぐる空に星一つ流れて飛びぬ君を待つ夜の

△ 辨天島小景 西條亂調子

△ 浪靜か濱邊の宿の明けそめて磯の小松に曳く霞か

△ 冬晴れの日ざしあかるき鳩小屋の窓より鳩の並びたる見ゆ

△ 無題 霜村生

△ 円らなる暗開きて笑ふ子を腕に抱けば父ごと思ふ今よりは我が自らの懐しみも棄てんごと思ふ吾子をみつめつつ

不許複製

編輯兼發行人 森川太郎
 印刷者 谷口黙次
 印刷所 谷口印刷所
 發行所 關西大學學報局

大正十一年六月十五日創刊
 昭和三年五月十三日印刷
 昭和三年五月十五日發行

大正十一年六月十五日創刊
 昭和三年五月十三日印刷
 昭和三年五月十五日發行

大正十一年六月十五日創刊
 昭和三年五月十三日印刷
 昭和三年五月十五日發行

大正十一年六月十五日創刊
 昭和三年五月十三日印刷
 昭和三年五月十五日發行

千里山學舎 關西大學

謹告

拜啓益御清穆奉賀候陳者 小生儀大正十四年三月關西大學
學長に就任以來公私共不一方御懇情を蒙り御芳情難有奉
感謝候今回一身上の都合に依り辭任致候に付ては在職中
の御厚誼を謝し併せて御挨拶申上度如斯御座候 敬具

昭和三年五月

松本 丞治

校友各位

謹告

拜啓益御健勝奉慶賀候陳者 小生儀今回松本博士辭任の後
を亨け關西大學學長に就任致候に付ては今後公私共御懇
情賜はり度奉希上候先は不取敢書面を以て御挨拶申上度
如斯御座候 敬具

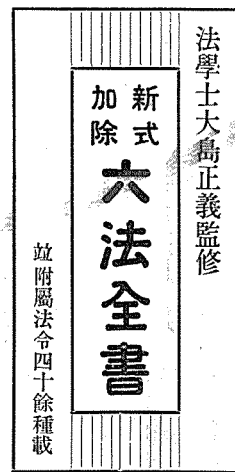
昭和三年五月

仁保 龜松

校友各位

特に學生諸君へ薦むる書

昭和三年版



六法全書を知らざる者は眞の學徒にあらず

○加除自在にして諸法令改正事に新に一本を購入する必要なし
○法令改正の都度申込者に限り毎年改廢増訂部分加除録を受く

法學士大島正義監修

新式 加除 六法全書

並附屬法令四十餘種載

◆定價金 參圓八拾錢也
一千部限り
特價金參圓參拾錢也
送料本社負擔

◆東京 敎文社責任發行

六法全書を備へざる者は眞の現代人にあらず

○總數千九百餘頁縱五寸横三寸の小形携帶に至便且美本なり
○價格至廉にして重要な附屬法令の載録他書に見ず

藝文誌「たひ路」發行所

(本十二錢對入)

大阪 市尾 旅路文藝社 振替 三三二八〇

田川七郎先生著

珠算要義

菊版總一ノ製紙數約百九十九頁 (定價金壹圓)

訂正第三出版來

著者は曾つて實際に算盤をこつて實
業界に活動し、或ひは陸軍將校實業
講習會に於て珠算を講じたることあ
りしのみならず現に關西甲種商業學
校及び關西大學第二商業學校に於て
珠算科を受持ち令名ある人、多年に
互る經驗と研鑽の結果を傾けてこゝ
に本書をなす。編を分つこと七、苟
くも珠算に關することにして細大説
いて盡さざるなく、加之、附録とし
て多數の練習問題を掲げ以て敎授並
ひに獨習の便に供す。蓋し敎科書と
して將又一般參考書として良著の最
たるを失はず、敢へて江湖に薦む。

發行所

東京 市尾 旅路文藝社 振替 三三二八〇

發行所

大阪 市尾 旅路文藝社 振替 三三二八〇

皮膚軟弱なる
小兒に好適す

一、學界の問題となれる一般増布料の如き亞鉛華を含有せず絶対無害なり

亞鉛華に於ける如き鉛分を含有し又は不純成分によりて患部を増悪せしむる惧なし。

一、持續的の殺菌消毒力を有し粉末は微細なるが故に皮膚になじみよく水分を吸収し撒布後は極めて清快なり

在來の亞鉛華を主とする撒布劑は分泌する汗及び有機物より腐敗を起し惡臭を發し反て患部を増悪せしむることあり。

一、癢痒を速に治す

皮膚疾患の治療には最も止痒を必要とす。

包裝	三〇瓦入	貳拾錢	五〇瓦入	參拾錢
	一〇〇瓦入	五拾錢	二五〇瓦入	壹圓
	五〇〇瓦入	壹圓八十錢		

汗疹濕疹撒布劑 ポール

發賣元
大阪市東區道修町
株式會社 塩野義商店
東京日本橋區大傳馬町

